

PIAZZA

世界教養の知のひろばへ

ピアッツァ
2022 vol.7

特集

未来の自分と出会う



名古屋外国語大学出版会

新刊のご案内

NUFS WORKS 7
名古屋外大ワークス7

ネム船長の哲学航海記 I

ソクラテスからの質問

「価値は人それぞれ」でいいのか

根無 一信
KAZUNOBU NEMU



(A5判・186頁・1760円)

初めて哲学を学ぶ人のための画期的な入門書。すべての人間を感動させる歌はあるのか、美味しいものが美味しいのはなぜ？……わかりやすい問いかけから始まり、次々に「常識」がくつつがえされていく。〈人それぞれ〉の〈相対主義〉でジェノサイドや殺人、戦争が防げるか……。ものごとの真の原因、真の理由を追求し続け、「よりよく生きること」を求め続けた古代ギリシャのソクラテスからの呼びかけに、我々は今こそ向き合いたい。新進気鋭の人気哲学研究者が初めて書き下ろす、楽しく読める〈生きるための〉哲学[ネム船長の哲学航海記シリーズ第1弾]。

8月31日発売

 名古屋外国語大学出版会
Nagoya University of Foreign Studies Press

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地
TEL 0561-74-1111 FAX 0561-75-1723
<https://nufs-up.jp/>

特集 **未来の自分と出会う**

目次

ようこそ、広場へ ビレッジ ◎大岩 昌子 02

特集
未来の自分と出会う 05

特集インタビュー

通訳という未来に向かって ◎浅野 輝子

未来の自分をもっと好きになるために ◎佐取 美紀

未来の自分の見つけ方 ◎木内 莞

変化、無駄、多様性を楽しもう！ ◎磯村 昌彦

世界のたより 16

東アフリカの島セーシェルで

勉強の楽しみを見つけた ◎高瀬 葵

音楽コラム 18

だから、立ち止まらない ◎福田 真弓

複言語の世界 20

イディッシュ語 ポーランド語

失われたイディッシュ語世界を求めて ◎西村 木綿

エスペラント語の世界

エスペラントを通じた国際交流 ◎高橋 佑宜

学長だより
二つの「魔」の間で ◎亀山 郁夫 28

留学座談会
留学経験は人生の宝です 30

◎石田 聖子 白井 史人 吉見 かおる

特別読書エッセイ

あなたが引き寄せる読書 ◎古澤 言太 35

レポートの書き方 ⑦

「学期末レポートの書き方(5)」 ◎真田 郷史 36

キャンパス通信
NUFS & NUAS 読書コメント大賞 41

読書コメント対談 — 選書ツアーに変えて

出版会から

世界のあらゆる夢 ◎川端 博 49

図書館より 50

また会いましょう 54

ようこそ、広場へ^{ピアッツァ}

大岩 昌子

名古屋外国語大学出版会・編集長

京都の北部、北野天満宮のすぐそばに、ポルトガル料理を提供するカフェがある。カステラの原型で、十六世紀に日本へ伝わったとされるパオンデローが美味しい。洗礼式・結婚式といった人生の大切な瞬間に欠かすことのできないポルトガルの伝統菓子だ。卵、砂糖、小麦粉で造られる素朴な味が魅力だが、その配合やケーキ型が地方によってことなるため、風味や食感の多様性が楽しめる。

いつの頃だったか、ポルトガルを旅して以来、その文化的魅力にとりつかれた。大西洋の端、ロカ岬に刻まれた「ここに地果て、海始まる」は、ちようどパオンデローが伝わった頃に活躍した大詩人、ルイス・デ・カモンイスによる詩の一節だ。

二十世紀には、遺稿がスーツケースの中から大量に見えられた詩人、フェルナンド・ペソアもいる。イタリアの作家、アントニオ・タブッキが敬愛し紹介したことで知られる。彼は、ペソアの詩を原語で読みたい一心で、ポルトガル語を勉強したと言われている。今号の特集タイトルが「未来の自分と出会う」と決定した時、このペソアの詩が私の頭の中をよぎった。タイトルは「逃亡者」。

わたしは逃亡者だ

生まれたとき わたしは

自分のなかに閉じ込められた

ああしかし私は逃げた

ひとは飽きるものだ

同じ場所に

それなら同じであることに

どうして飽きぬことがあろうか

わたしの魂は自分を探し

さまよいつづける

願わくはわたしの魂が

自分に出逢いませぬように

何ものかであることは牢獄だ

自分であることは存在しないことだ

逃げながらわたしは生きるだろう

より生き生きとほんとうに

出版会には、いくつかのシリーズがあるが、その中のひとつ『世界文学の小宇宙』という翻訳集で、今年、第三弾の刊行を予定している。第二弾までの短編集とは異なり、世界の十七地域の詩を集めた詩集となる。できれば、人生をもとに歩めるような詩に出会ってもらえたら嬉しい。また、ぜひ参加していただきたいのが、図書館と共催する「読書コメント大賞」。十月には募集が開始される予定だ。

ところで、この冊子のタイトル Piazza は、イタリア語で「広場」を意味する。大学はさまざまな世代、国籍の集団であり、交流の場である。皆さんは確実に、その一員として迎えられている。不透明な時代だからこそ、自由に、思いのままに、生き生きとした大学生活を送ってほしい。

改めて、ようこそ、Piazza へ。

特集

未来の自分と出会う



通訳という未来に向かって



特集インタビュー

浅野 輝子

構成・川端博

コミュニケーションこそが人間の生き方

はじめに申し上げたいと思いますが、紛争を解決するのは、武力やお金ではありません。コミュニケーションの力なのです。私の恩師からいただいたこの教えが、現在ではますます重要になっていっていると思います。

英語、とくに通訳という仕事に興味を抱いたのには、父の影響がありました。わたしの父は、太平洋戦争中のフィリピン・ミンダナオ島の密林でアメリカ兵の捕虜となり、同行していた地元の方の通訳のおかげで九死に一生を得た、という経験がありました。

そのことから父はたびたびわたしに、これからの世界は英語が必要だ、通訳という仕事は平和のために本当に役立つのだ、と教えてくれたのです。

大学卒業のとき普通の就職も考えましたが、初の月面着陸の中継を同時通訳された西山千さんにあこがれたことや、母のサジェスチョンもあって、やはり通訳のスキルを身に付けようと思えました。東京の通訳養成所に三年間通い、そのあいだに国際会議やビジネスの商談などの通訳も経験させていただきました。

名古屋に戻ったあと、やはりそのスキルが役立つこととなります。当時、外国人のからむ犯罪が増え、弁護士会に頼まれて法廷通訳などをお手伝いしました。

幸い大学にも職を得て、英語や通訳を教えるかたわら、さまざまな分野での通訳の仕事に携わりました。十年ほど前からは愛知県とのコラボで、いわゆるコミュニティ通訳のひとつ、「あいち医療通訳システム」も担当させていただいています。

通訳のときどきに起こる出来事

高校を出てこの大学に入った学生さんのなかには、将来は外国語を用いた仕事にかかわりたいという人もいらっしやるでしょう。そんな方に、まずは世界的な教養を身につけながら、外国語を学んでいただきたいということをお伝えします。

どのような仕事にかかわろうと、教養こそが道を切り開いていく大きな手掛かりになりますね。たとえば通訳に最初に求められるのは、偏見のない共感力と幅広い視野です。そして、時代とともに仕事には新しい分野が生まれるので、いろいろな方面への好奇心と教養がとても大事になります。通訳は文化の橋渡しをする仕事ともいえますから、この点を強調しておきたいと思います。

一般の方は漠然と、通訳とはコミュニケーションの仲介者というイメージをお持ちだと思います。しかし通訳は、自分の好きなことだけを話すフリーカンバセーションとは違います。通訳には、四つのステップがあります。第一は、人の話をよく聞くこと、つまりいい耳をもつことが大事です。ただ聞くのではなく、一〇〇パーセント集中して細大漏らさず聞き取るといって、完全な集中力が必要です。第二に、話の内容を理解すること。その際、背景知識があれば、より深く理解することができます。そして三番目は、瞬時に言語変換すること。四番目に必要なのは、内容を把握したうえで、聞き手が理解できる言語で伝えること。ただの話者として表現するものではありません。その言葉でのプレゼンテーション能力が求められます。

こうした四つのステップが、通訳という仕事の瞬間ごとに生じています。日常生活ではまずありえないので、特殊技能、自分のスキルとして身につける必要があるわけですね。とうぜんそれは、就職のときも有利に働きます。

「学生通訳コンテスト」の役割

通訳についてのこのような理解を広く知っていただく目的もあって、さまざまな方のお知恵とご協力をあおぎながら、大学生による通訳コンテストを、年に一度この大学で開催しています。昨年はその第十五回目、十一月二十七日、コロナの影響でオンラインでの開催となりました。正式名称は、「全国外大連合連携事業 第十五回学生通訳コンテスト」。

全国から、優秀な学生さんが、各大学一名という狭き門からの選抜で参加します。そしてこのコンテストは、実際の通訳に近い状況を設定して行われるのが特徴です。まず、現代にふさわしいトピックをキーワードとして設定し、あらかじめ公表しておきます。昨年のトピックは、「〈新たな日常〉と人間性に向かって The Quest for Humanity's "New Normal"」でした。

本番のコンテストでは、さらに教養、背景知識、その時代において注目されている社会問題などを、その場でサブトピックとして出題、その課題に対する考えを、日本語から英語、英語から日本語に逐次通訳してもらおうのです。



出場順はくじ引き。サブトピックの何が自分に当たるかわかりません。つまり、メインテーマの全般を、数か月かけてリサーチ・予測しなければ対処できないはず。この形式は、通訳のじっさいの仕事を受けるときと同じプロセスで、そこに意味があることはおわかりいただけると思います。

未来のためのすばらしい仕事

コンテストを十五年もやってきたおかげで、インターナショナルコミュニケーションが一〇〇人以上、社会に巣立ってくれました。さまざまな分野で活躍しています。ビジネス、医療、司法、エンターテイメント、災害ボランティアなど、現在はジャンルごとに通訳者の登録ができるようになりました。中日ドラゴンズの通訳になりたいという学生もいるし、通訳・翻訳会社をつくった方もいらっしゃいます。

これらのどの分野でも、AIだけではぜったいに無理な人間的な温かさとともにコミュニケーションする。それが通訳の本質です。そのためには、繰り返ししますが、偏見のない広い視野、広い教養が必要となります。いま、このような時代だからこそ、目を大きく開いてよく見、よく聞き、人ともつながり、あらゆるものごとくに積極的な関心を抱くことが必要でしょう。

通訳は、すばらしい仕事です。英語で聞いて感動し、それを日本語に直したときもまた感動できる。もちろん、他の言語の通訳も育っています。

ぜひ皆さんも、通訳に関心をもって、未来の自分の可能性の一つとして考えていただければと思います。

未来の自分をもっと好きになるために

佐取 美紀

バラバラの点と点が将来つながっていく話

私は一年生の専攻言語（英語）を担当していますが、第一回目の授業で読むのがステイブ・ジョブズの話です。教科書の内容に入る前に、スタンフォード大学の卒業生に向けたジョブズのスピーチの動画を視聴することから始めます。視聴した後、心に残った部分について、グループで話しあってもらいます。自分の想いや考えを伝え合う主体的で対話的な時間になっているようです。

ジョブズの話の中で私が個人的に心に残っているのは、スピーチ冒頭の“connecting dots”です。ジョブズは、家庭の事情でリード大学を半年で退学した後、興味のない科目を取るのをやめて、面白そうな授業だけを聴講することに決めました。その一つ、国内でも最高水準のカリグラフィ（芸術的文字書法）の授業を聴講し、科学では判別できないアートの世界に夢中になり

ました。それから一〇年後、彼のこのドロップイン（寄り道）がマッキントッシュコンピュータの美しいフォントの設計につながったのです。

私自身も、大学の学部では化学を専攻し、卒業後は白衣を着て化学品の検査を行う等、今とは全く違う仕事をしていたので、この仕事に就く前にかなり長い寄り道をしていることになるのですが、大学四年間で学んだ科学的思考法や、仮説と違う結果が出た時に面白い研究が生まれることなどの体験は、現在の思考・判断・行動の基礎を作ってくれたと思っています。

コロナやロシアのウクライナ侵攻など未来が見えない不安定な社会の中、これからの社会に必要となってくる営みや仕事は様々です。皆さんは、今はまたこの世の中に生まれていない仕事に就くことになるかもしれません。私たちは、タイムマシンに乗って未来に先回りして、点をつなげていくことはできません。ジョブズが言っているように、これから大学で学ぶことが、みなさんの歩んでいく道のどこかで必ずつながっていくと信じて、いろいろなことに興味を持ち、心のまま自由に学びを楽しんでもらえたら嬉しく思います。

心の中の「想いの力」を使う

私は主に言語習得の研究をしているのですが、言語は心とつながっているので、豊かな言語能力を身につけるには、心の持ち方や信念が大切だという話を学生にしています。実際、自分を信じる力やのび（やりぬく力）の高い人は、必ず英語の力も伸びています。そのため、学生の皆さんには、「自分の可能性に限界線を引かないでください」とお願いをしています。ですが、このことは言語学習に限らず、現在・過去・未来の自分の生き方に誇りを持つためにも、大切なことだと思っています。

ジェームズ・アレンという英国の作家が、「原因と結果の法則」の中で、「私たちは心であり、想いという道具をもちいて自分の人生を形づくり、私たちは心の中で描いたとおりの人間になる」と述べています。これまでの卒業生を振り返ってみても、例えば海外で働くなどの自分の夢や目標を最終的にかなえている人は、入学時点の能力とは関係なく、「将来、必ず目標を達成できる」という信念をもっていた人だったように思います。「どのような人間になりたいか」を強く思い描きながら行動をすることで、みなさんの未来は

創られるということを信じてほしいと思います。

言葉の力を磨く

どのような職業であっても、人と関わることなしに良い仕事をなすことはできません。豊かなコミュニケーション能力を身につけるためにも、ぜひ言葉の力を磨いてください。読書や、文章をたくさん書くこと、積極的に話すことはもちろんですが、「相手の話を真剣に聞くこと」が、最も大切なことだと思います。「傾聴力」こそが、言葉の力を磨くことの始まりであり、自己尊重につながり、心を磨くことにもなるのです。皆さんが、大学での四年間を通して、未来の自分を創造する有意義な時間を過ごしてくださることを願っています。



さとり みき
世界教養学科・世界教養学部

未来の自分の見つけ方

木内 堯

特集のテーマは、未来の自分と出会う。YOASOBIの歌にでも出てきそうな素敵な言葉だけれど、もう少し散文的に言い換えるとしたら、自分の将来を具体的にイメージする、くらいの意味だろうか。でも、それってけっこう難しいことだと思う。そういえば自分も日々の仕事に追われて、一週間後の自分の姿を想像することさえままならないことがよくある。一年後、五年後の自分の姿をイメージするなんて、言わずもがなである。

社会心理学の研究によると、日本人は遠い将来のことを考えるのが不得手であるという。長期的な展望を持つことができず、短期的な視点で物事を考えがちであるというのだ。それはなぜか。自然災害が多いことがその最たる理由であるらしい。地震や台風といった自然災害はいつ起こるかかわからない。予測困難な出来事が多いと、遠い将来のことまでわざわざ考える気が

しなくなるのかもしれない。あとは信仰心の薄さも関係しているのだとか。信仰心のある人のほうが、人生を長いスパンで見渡せるというのも、まあ何となくわかる気はする。

さて、こうした状況に追い討ちを掛けるようにして登場したのが、新型コロナウイルス感染症である。感染拡大の影響で、未来への展望を描くことは、以前にも増して難しくなった。コロナ禍はいつになったら終わるのか、終わった後にはどのような世界が私たちを待ち受けているのか、誰にもわからない。こうした状況下で、未来に向けて確固とした展望を持つと言われなくても、それは無理というものだろう。今求められているのはむしろ、環境の変化に柔軟に適応していく能力だと思ふ。でも、適応力をいくら磨いても、それだけだと周りに流されて、自分を見失ってしまうかもしれない。そうならないようにするためには、将来をはっきりと思い描くことができなくても、これだけは譲れないというような、自分だけの指針をしっかりと持つことが、やはり大事だと思う。

大学三年生か四年生の頃、自分が二十代の間にしたいことをリストにまとめて、手帳に書き出したことが

あった。どういうきつかけでこのリストを作ったのかはすっかり忘れてしまったが、将来のことで人並みに不安を抱えていたのだろう。頭の中でごちゃごちゃと考えていることを紙に書き出すのは、何にせよ有用であると今でも思う。なぜ二十代の間にとり縛りをつけたのかというと、これは別に生き急いでいたわけではなくて、当時の自分には三十代以降のことはあまりにも遠い未来のことに思えて、想像することすらできなかったからだ。

二十代の間にしたいことはたしか十個あったはずだ。でも二十代のうちに実際に実現できたのは、その半数にも満たなかった（「フランスの大学院に留学する」という最上位の項目は二十代半ばに実現した）。自分にとって二十代は、何かを実現するためには何かを諦めなければいけないことを知る期間だった。

でもそれでも、リストを作った意味はあったと思う。このリストのおかげで自分が本当にやりたかったことをその後も見失わずにいられたからだ。リストの中には、後になって関心を失ってしまった項目もある。しかしそれはそれでいい。実は今、このリストに書いたことのひとつを、ようやく実現しつつある（小説の

翻訳をする」という項目）。かつて抱いていた夢を実現するのは、過去の自分に出会うことであるような気がしている。

人生は旅に似ている。何も計画を立てずに、行き当たりばつたりの旅に出るのも悪くないが、よつほどの強運の持ち主でない限り、あまり遠くへは行けないだろう。だからと言って、ぎちぎちに計画を立てると、偶然の出会いが入り込む余地がなくなると、味気ない旅に終わる。

行き倒れすることのないようにほどほどに計画を立てて、偶然の出会いを楽しむ余地もほどほどに残しつつ、行けるところまで行ってみよう。目的地はいくつあったっていいし、その全部にたどり着けなくたっていい。途中で目的地を変えたって構わない。いちばん大事なのは、旅を楽しむことだ。Bon voyage! ような旅を！



きのうち たかし
外国語学部・フランス語学科

変化、無駄、多様性を楽しもう！

磯村 昌彦

進化学における有名なフレーズ、理論

学生の皆さんは中学、高校時代の理科や生物でチャールズ・ダーウインを始祖とする進化学について学んできたと思います。そんな進化学には、いくつか有名なフレーズ、理論があります。

たとえば自己啓発書などで、ダーウインの言葉として「強い者、賢い者が生き残るのではない。変化できる者が生き残るのだ」というものを読んだ人もいるでしょう（ただしこれは彼の考えではなく、異分野である経営学者の言葉であり、進化学としては誤りだそうです）。

また進化のプロセスの一つに突然変異があります。遺伝子の本体であるDNAで発生するランダムな変化であり、コピーのミスだとされています。もし重要な機能を司るDNAの領域でエラーが発生すると、その生物は誕生すら困難になります。重要ではない、あ

えて言えば「無駄」な領域でのエラーはむしろ、生き残るために有利なイノベーションにつながる可能性があるそうです。

さらに異質な集団が出会って交配すると、遺伝的な「多様性」が増え、その結果、新たな進化が発生しやすくなると考えられています。

ビジネスにおける進化

このようなフレーズ、理論をビジネスの現場に適用するとどのようなことが言えるでしょうか？

一つ目の「変化できる者こそが生き残る」の代表事例としては、富士フィルムホールディングス(株)が挙げられます。皆さんにとって、写真を撮るということはスマートフォンによる行為だと思えますが、一昔前はデジタルカメラが主流であり、私が大学生ぐらいまでは銀塩カメラが一般的でした。富士フィルムはまさに、その銀塩カメラ用のフィルムを長らく主力事業としていたのですが、二〇〇〇年代以降にデジタル化という大きな危機に襲われます。

彼らは生き残るためデジタルカメラの生産に乗り出し、そして現在ではヘルスケア分野などを主な事業と

するまで変化を遂げました。フィルム時代の最強ライバルであったコダック社が、デジタル化に上手く対応できず破綻に至ったことと対照的です。

二つ目の「無駄」な領域はどうでしょうか？ 激しい競争下にある企業にとって、効率的に利益を生み出すことは重要であり、「無駄」の排除は当然のように思えます。しかし長期的には、その「無駄」を戦略的に活用することが重要になります。具体的には、3Mという企業が採用する一五%カルチャーというものが挙げられます。

これは、勤務時間の一五%は自分の好きな業務に使っても良いというものです。上司に秘密にすることができ、何もしなくても問題になりません。目先の利益とは関係ない、いわば「無駄」とも言えますが、この一五%カルチャーによって誕生した有名な製品が、ポストイットです。愛用している人も多いと思います。もし3Mが効率性のみを追求していれば、このロングセラー商品は誕生しなかったでしょう。

三点目の「多様性」について、多くを語る必要はないでしょう。男性正社員中心の古き「日本的経営」ではなく、女性や多様な文化的背景を持った人材の活躍

できる環境が、企業のダイナミズムにとって重要になっています。

どのような未来の自分に出会うのか？

ここまで進化学からビジネスの事例まで述べてきました。では本号の特集テーマに立ち返った時、皆さんはどのような未来の自分に出会うのでしょうか？

これから様々な変化に直面することでしょう。その変化を恐れず、チャンスとして楽しんでください。一見、無駄と思える回り道を楽しんでください。自分とは異なる背景を持つ教員、友人たちとの交流を楽しんでください。

きつと、現時点では想像もできない、素敵な未来の自分と出会えることでしょう。

※本稿執筆にあたり以下の書籍を参考にしました。千葉聡(二〇二〇)『進化のからくり 現代のダーウィンたちの物語』講談社。自然科学をテーマとするブルーバックスシリーズの一冊ですが、文系学生にも読みやすく面白いです。学ぶことの楽しさを改めて感じさせてくれる本であり、おすすめです。



いそむらまさひこ
現代国際学部・グローバルビジネス学科

東アフリカの島セーシェルで

勉強の楽しみを見つけた

高瀬葵

こんにちは！ 名古屋外国語大学外国語学部フランス語学科卒業生の高瀬葵と申します。学生時代には一年間、留学生寮でのレジデンスアシスタント（RA）として暮らし、長期休みにはフロリダでNPO

のボランティア、フランスとオーストラリアへ合計一年半の二カ国留学等を経験しました。大学入学時に、ぼんやりと「いつか海外で仕事をしたいな」と思っていました。卒業に近づけば近づくほど、「必ず海外で働きたい！」と思うようになりました。

大学卒業後は、新型コロナウイルスの影響で海外での就職は諦めるつもりでしたが、在外公館派遣員に応募し、第一希望であった在セーシェル日本大使館から内定を頂き、現在、会計や広報、翻訳、要人訪問の便宜供与等を担当しています。

派遣員は外交官ではないのですが、外交官の上司

から外交問題やこれまでの日本の外交等、日本と世界との関わりを教えていただいたり、他の国の外交官との繋がりができたことで、彼らから見た日本についての話を聞くことができたりと、刺激的でとても勉強になる毎日を過ごしています。大学時代には、こんなに勉強をするのもう人生で最後だろうと思っていました。セーシェルに来てからはあまりに無知な自分が恥ずかしく、今も同じくらい勉強しているかもしれません。

セーシェル共和国は、東アフリカにある人口一〇万人弱の小さな島国です。公用語は、英語、仏語、クレオール語の三カ国語。一一五の島々から成り立っており、大使館のある本島の面積は、日本の本州の約一四〇〇分の一です。小さい国であるがゆえ、日本とは比べても比べきれないほどの違いがあります。ほぼ全ての物を輸入に頼っているため、手に入らない物が多く、手に入っても値段は日本の何倍もします。

セーシェル人はとてもんびりしていて、仕事のために小走りしている人なんて見たことがありませんし、仕事で現地の人とポイントメントを取りた

ければ、何回もメールと電話をし、前日にはリマインダーを送る必要があります。娯楽もないため、海と山以外は遊びに行く場所ありません。不便なことも多いのですが、週末、当地で出会った人々とインド洋の美しいビーチで過ごしたり、無人島に出かけたり、お互いの家で各国の手料理をふるまい合ったり、また平日の夜は、勉強のために時間を使ったりする毎日に、とても充実感を感じています。

こうしてセーシェルでの生活を楽しめるのは、大学での四年間があつてこそだと思えます。大学時代にフランスとオーストラリアに留学したことで、自分のコンフォートゾーンを抜けて、文化の違いを感じながらも、現地になじむ努力をできるようにになりました。また日本で暮らす留学生と同じ寮にRAとして生活することで、異なるバックグラウンドを持った人々と理解し合うことができるかを考えられるようになりました。さらに大学生になってから、今までは好きではなかった勉強が楽しいと思えるようになったことで、いま社会人として、自分の知識を広げるために勉強をすることを楽しめているのです。

大学生活で経験したことは、その後につながり、

自分を成長させることができるだけでなく、一生志れないであろう充実した大切な思い出になります。新入生の皆さん、いま大学生の皆さんには、四年間という限られた学生生活をいかに充実させることができるか考え、より多くのことを経験してほしいと思います。



たかせ あおい
フランス語学科卒業

だから、立ち止まらない

福田 眞弓

新しい環境に飛び込むのはいつだって勇気がいる。知らない人が多く現れて、わからないことばかりになる。生活環境だつて変わるかもしれない。それに加えて、フランスに留学した私にとっては、言語や文化という大きな壁があった。音楽は国を超えて誰でも理解し得るが、その音楽を構成しているものを説明したい時、そして同じ音楽を志す仲間や先生活方との交流には、やはりフランス語が必須だった。

幼少期からピアノを習ってきて、愛知県立芸術大学でピアノを専攻した私は、卒業後に留学する事を選んだ。子供の頃、父の仕事の都合で一年間イギリスで暮らしていた私にとってヨーロッパは身近で、生活することへの抵抗感はほぼなかった。家族が応援してくれた事も大きい。それ故に他の人よりは、ずつと穏やかにフランスで暮らし始めたと思うが、それでも今日まで苦労がなかったとは言えない。特

にコロナウィルス（COVID-19）が発生してからは、日本以上にロックダウン（都市封鎖）を始めとする制限がかかり、一時期は対面でのピアノのレッスンすらままならない状態となってしまった。それでもその当時帰国を選ばなかった、正確には考えもしなかったのは、目標にしてきたパリ国立高等音楽院のピアノ伴奏科に合格していたからであり、またエコー・ノルマル音楽院で師事しているピアノの先生のレッスンを、最高課程の終わりまできちんと受け続けたいと思ったからだだった。

今こそフランス語で一通りの授業をほぼ問題なく受けることができるようになったが、最初はパン屋での一言二言の買い物をするのにも緊張したのを思い出す。他の人が話すのを聞いて、まずは言い回しをまねていった。日本でフランス語のレッスンや授業を受けて勉強していたものの、実際の場面での会話となると話は別だったからだ。音楽用語やそれに伴う表現は、授業の中で少しずつ覚えていった。特にマンツーマンのレッスンは同時にフランス語の学びの場にもなっていた。

今でもフランス語は勉強中だけれども、意思疎通

がある程度できるようになってやっと胸を張ってフランスで暮らしていますと言えるようになった、気がする。

フランスは三月で大多数の規制が撤廃された。今ではマスクなしで学校の授業を受ける事ができるようになり、入学以来初めてちゃんと顔を見た友達もいる。もちろん依然気は抜けないが、フランスや日本で久しぶりに人前で演奏する機会があつて、そして他の楽器や歌の人と気兼ねなく（お互いきちんと距離を保ちつつ）一緒に演奏することができるようになって、幸せだなと思う。演奏している間、私はもしかしたら物凄く生を感じているのかもしれない。

今号のテーマである「未来の自分と出会う」、実はこれが私が演奏の本番の前に考える事である。時間は巻き戻せないし、当然止めることもできないから、どれだけ緊張していても自分の番はやってくる。そして演奏後の自分は、間違ひなく何かしらの経験値を得ているのだからその未来に行こう、と自分に言い聞かせている。私にとって緊張をほぐす一つの手段であり、できるだけのをやってやろうと自

分を鼓舞することとする。

大学生になった当時の私は、将来留学したいと考えていたけれど、もちろんはつきりと今の自分を想像できていた訳ではない。新たな出会いが私の世界を広げ、コロナによって想定もしなかった不安が生まれた。この先のもっとわからないけれど、きつとどこかでピアノを弾いているんだろうなと思う。

今よりもっと未来の自分は、どれだけ変わっているのだろう。せっかくならより素敵な自分に出会いたいから、今日も私は少しずつ、自分のペースで前に進んでいく。変わっていくものも多いけれど、変わらないものも沢山あるからきつと大丈夫だ。

最後に、現在勉強している曲の中からお薦めを一曲。レベッカ・クラーク Rebecca Clarke 作曲、ヴィオラソナタ。作曲者はイギリス出身だが、フランス音楽の影響を感じさせる響きを持った曲だ。気になった方は是非聴いてみてほしい。



ふくだ まゆみ
パリ国立高等音楽院在学中
十一月五日、電気文化会館にて
リサイタル予定



イディッシュ語 ポーランド語

失われたイディッシュ語世界を求めて

西村 木綿

ポーランドのユダヤ人は何語を話したか？

第二次世界大戦前のポーランドのユダヤ人の歴史を研究しています、という
と、学生の皆さんからは、「ユダヤ人といえば『アンネの日記』を読んだこと
があります」「宗教の授業を受けていて、ユダヤ教のことも知りたいと思っ
ています」といった反応が返ってくることもある。迫害を受けた人々、キリス
ト教とは異なる宗教を持った人々。ユダヤ人と呼ばれる人々のイメージは、概ね
このようなものだろうか。

では、ユダヤ人が何語を話していたか、については、考えてみたことはある
だろうか。

ここでは紙幅の都合上、時代と地域を第二次世界大戦前のヨーロッパに限定
する。当時、ユダヤ人はヨーロッパの各地に居住し、使用言語も各地で異なっ
ていた。『アンネの日記』が書かれたのはオランダ語だ。

その同じ時期、ポーランドのユダヤ人は、何語を話していただろうか？ ポー
ランド語？ 正解。でも、満点ではない。多くのユダヤ人はポーランド語を、
あるいはポーランド語も話したが、圧倒的多数は、イディッシュ語という言葉
を母語とした。

グローバルな言語から〈絶滅危惧種〉の言語へ

イディッシュ語とポーランド語はかなり違う。ポーランド語は、スラヴ語派の西スラヴ語に分類され、東スラヴ語に属するロシア語やウクライナ語とは文法がよく似ている。これに対しイディッシュ語が属するのは、英語やドイツ語と同じゲルマン語派だ。イディッシュ語は中世にドイツに定住したユダヤ教徒たちがドイツ語を母体に発展させた言語であり、文法や語彙はドイツ語によく似ている。ただし、文字はヘブライ文字を使って右から左に書く（ヘブライ語はユダヤ教の聖書が書かれた言語だが、日常生活では用いられなくなっていた）。中世後期にかけて、ユダヤ教徒は西ヨーロッパで迫害を受けて東方へと移住し、その過程でイディッシュ語は、スラヴ諸語、とくにポーランド語の影響を強く受けた。つまり、イディッシュ語は、中世ドイツ語をベースとしながら、古代ユダヤ人の用いたヘブライ語やアラム語の語彙、さらに、スラヴの語彙や文法の特徴を部分的に取り入れた、混成言語としての性格をもつ言語だ。

イディッシュ語という言語が存在すること自体、知らなかったという人も多いのではないだろうか（私も大学生になるまではそうだった）。それもそのはず、現在、イディッシュ語は話者数が一〇〇万人に満たないマイノリティ言語である。第二次世界大戦前には、イディッシュ語はロシアやポーランドをはじめとする東ヨーロッパに、北米、南米、南アフリカ、パレスチナといった東欧ユダヤ人の移民先を合わせ、世界に一〇〇〇〜一三〇〇万人の話者をもつグローバルな言語であった。話者数激減の一つの要因は、無論、ナチス・ドイツによるユダヤ人絶滅政策（ホロコースト）である。そして戦後、北米をはじめとする移民先や、ユダヤ人の国家として建国され、ヘブライ語を公用語と定めたイス

ラエルにおいて、それぞれ現地の言語の習得が進んだ。今ではイディッシュ語話者のほとんどは、かなりの高齢者か、ユダヤ教の超正統派のコミュニティーに属する人々だ（後者は聖書が書かれたヘブライ語を聖なる言語と考え、日常語では用いない）。

イディッシュ語の世界を訪ねてみよう、まずは日本語で

第二次世界大戦前のポーランドのユダヤ人社会を知ることが、そこに息づいたイディッシュ語の世界を知ることでもある。失われたその世界では、各種のイディッシュ語新聞や雑誌が出版され、イディッシュ語劇場が多くの観客を集め、気鋭の作家たちが次々とイディッシュ語の文学作品を生み出した。イディッシュ語の旗を掲げたユダヤ人の諸政党が大衆に向けてイディッシュ語で演説した。劇場、ユダヤ人学校、青年組織、家庭、様々な場面にイディッシュ語の歌があった。

このようなかつての活気をイディッシュ語が取り戻すことは今後もありえないだろうが、しかし、そうであつてもなお、私たちがイディッシュ語の豊かな世界に触れることは可能だ。しかも、日本語を介して。

たとえば、ワルシャワ生まれのイディッシュ語作家、アイザック・バシエヴィス・シンガー。一九七八年のノーベル文学賞受賞時にイディッシュ語について語った彼の言葉——「国もなく、国境もなく、いかなる政府にも支持されることのない言語、武器や弾薬、軍事演習や戦略用の語彙もない言語」——は、イディッシュ語とイディッシュ語話者の世界の特徴をよく表す。シンガーは米合衆国へ移民し、自身の作品をイディッシュ語のみならず自ら英語に訳して（改

稿して) 発表したため、英語からの翻訳がかなりの数出版されている(『悔悟者』『シヨルシャ』など)。イディッシュ語原典からの翻訳も、数年前に刊行された(短編集『不浄の血』)。ユダヤの伝統と伝承に溢れた魅惑的な世界が描かれたかと思えば、放蕩な異性関係の描写があり、失われた人々の影が見え隠れもする。独特の世界観に驚くことだろう。

イディッシュ語原典からの翻訳作品を他にもあげれば、まずはシヨレム・アレイヘムの『牛乳屋テヴィエ』(岩波文庫)。「屋根の上のバイオリン弾き」のタイトルで知られる、ブロードウェイ発祥のミュージカル作品の原作だ。イディッシュ語の発話にみられるウクライナとの文化接触のありようまでもが見事に訳出されている。また、イディッシュ語演劇の古典、S・アンスキの『ディブツク』(未知谷の「ポーランド文学古典叢書シリーズ」より)。悪霊つきをモチーフに、ユダヤ教神秘主義の濃厚な世界が描かれる。イディッシュ語のグローバルな広がりに着目して編まれた『世界イディッシュ語短篇選』(岩波文庫)にも、是非手を伸ばしてみしてほしい。またイディッシュ語そのものを学ぶこともできる。白水社の初学者向けの語学テキスト、エクस्प्रेसシリーズには、ちゃんと『イディッシュ語』が入っている。同著者による『イディッシュ語読本』や、イディッシュ語話者の世界を広く扱った本『イディッシュ文化——東欧ユダヤ人の心の遺産』も楽しい。これらを紐解けば、きっと、「ヨーロッパ」や「ユダヤ」のイメージががらりと変わることだろう。



にしむら ゆう
世界共生学部・世界共生学科

에스ペ란토を通じた国際交流

高橋 佑宜

에스ペ란토ってどんな言語？

みなさんは、 에스ペ란토という言語を聞いたことがありますか？ 에스ペ란토とは、一八八七年にユダヤ系ポーランド人のラザロ・ルドヴィーコ・ザメンホフが発表した計画言語のことです。日本語や英語といった自然言語には母語話者が存在していますが、計画言語は人工的に作り出された言語であるため、(少数の例外もありますが)母語話者は存在していません。慣例的に「 에스ペ란토」だけで言語のことを指しますので、本稿でも 에스ペ란토語ではなく 에스ペ란토と呼びます。

なぜザメンホフは 에스ペ란토という計画言語を創案するに至ったのでしょうか？ これには一九世紀当時ロシア支配下にあったポーランドにおける多民族・多言語の環境が背景にあります。一八五八年、ザメンホフは現在のポーランド東部にあるヴィアリストクという町に生まれました。ヴィアリストクでは、ユダヤ人、ポーランド人、ロシア人、ドイツ人、ウクライナ人といった多民族がそれぞれ異なる言語を使って暮らしていました。民族や宗教の違いからお互いのことを疎んでいましたし、言語の違いから意思疎通が困難な場面が頻繁に起きていました。こうした状況を目の当たりにしたザメンホフは、民族間の不和を解決するためには、お互いの母語を押し付け合うのではなく、人類にとつて中立的な共通言語が必要だと考えるに至ったのです。

에스ペ란토とはどのような言語なのでしょう？ 文字と発音、語彙、文法の三点から見てみましょう。 에스ペ란토の文字もローマ字を使用しますが、

エスペラントのアルファベット

a b c ĉ d e f g ĝ ĥ h i j ĵ
k l m n o p r s ŝ t u ŭ v z

英語と比べてみると少し異なる所があります。a から z までの文字から q, w, x, y を除いて、e, g, h, j, s, r という独自の六文字を加えた二十八文字からなります。エスペラントの文字と発音の最大の特徴は一字一音の対応が保たれており、基本的にはローマ字読みすることができます。エスペラントの音は a, e, i, o, u (ア, エ, イ, オ, ウ) の五つの母音と二十三の子音からなります。ローマ字読みとは異なる所を確認しておきましょう。o は英語 cats の「ツ」、e は child の「チ」、i は yes の「イ」、j は pleasure の「ヅ」、s は ship の「シ」、u は how の「ウ」、そして、h は loch の「ホ」という音に相当するのですが、近年では h という文字自体を使わずに k で置き換えられています。単語のアクセントは、二音節以上であれば常に後ろから二つ目の音節にありますので、その母音をやや強く（音節が母音で終わっている場合はやや長く）発音します。文字と発音は一对一で対応し、アクセント位置も固定されていますので、覚えることが少ないという利点があります。

実際にエスペラントを使ってみましょう！
Saluton! Mi estas studento. Mi
lernas Esperanton. この文は「サルートン！ ミ エスタス ストゥデント。シレ
ルナス エスペラントン」のように発音します。「こんにちは！ 私は学生です。
私はエスペラントを学んでいます」という意味です。英単語に似た単語がある
ことにお気づきでしょうか？

エスペラントの単語はどのようにして作り出されたのでしょうか？ 無造作
に創造したわけではなく、自然言語に存在している単語を基にして作りまし
た。単語の語源は大別すると三つあります。まず、フランス語、スペイン語、イ
タリア語、ラテン語といったロマンス諸語、次に、英語やドイツ語などのゲル
マン諸語、そして、ロシア語やポーランド語といったスラブ諸語の単語が基に
なっています。初めてエスペラントの会話を聞くと、まるでイタリア語のよう
に聞こえると言われます。母音は五つ、アクセントは後ろから二番目、ロマン
ス諸語に由来する単語が多い、という特徴によるものでしょう。

文法は簡潔です。単語の語尾で品詞や時制を見分けることができるように

なっています。oで終わる単語は名詞で主格（〜は、〜が）を表しています。oにoを加えると名詞が目的格（〜を）であることを示します。動詞の活用も図に示したように例外なく規則的に活用します。このような点から先ほどの例を見直すと、Esperantoは「エスペラントを（目的格）」、lernasは「学んでいる（現在形）」であることに気がつくでしょう。目的格を表す語尾があるため、語順を入れ替えて、「Mi Esperanton lernas.」や「Esperanton mi lernas.」といった文にしても意味は変わりません。また、過去のことを述べたければ lernas を lernis にするだけで済みます。このように規則的に整理された文法のお陰で習得にかかる時間は比較的少なく済みます。

エスペラントとの出会いと国際交流

僕がエスペラントに出会ったのは中学生の時でした。インターネット上で存在を知り、人類にとつての共通語といった理念に惹かれました。地元のエスペラントに関心のある人々が集う会があることも知り、毎週開かれていた例会に足を運ぶようになりました。エスペラントを使用する人々をエスペラントイスト「Esperantisto」と呼びますが、例会には海外のエスペラントイストが訪ねてくることもあります。習ったばかりの表現を使って訪ねてきた方々と意思疎通し合うことができ、とても嬉しかったのを覚えています。僕の国際交流はエスペラントでのコミュニケーションから始まりました。高校生になってからは、海外からの訪問者の観光案内をすることもありました。

大学生の時には、「世界エスペラント大会」という世界各地のエスペラントイスト達が一同に会する集会が横浜で開催されることになりました。その頃には十分に話せるようになっていましたので、大会の日が待ち遠しかったのを覚えています。世界大会では、連日、様々な催しや会合などが開かれ、参加者と積極的にエスペラントで会話を楽しんだり、意見交換を行ったりすることができました。大会の翌月からイギリスに留学することが決まっていたので、ヨ

エスペラントの動詞の活用

-i	原型	lerni “to learn”
-as	現在形	lernas
-is	過去形	lernis
-os	未来形	lernos
-us	仮定法	lernus
-u	命令法	lernu

ロツパから参加しているエスペランティストにそのことを話すと、「旅行するならうちにもおいで！」と言ってくれる方々もいました。

留学先のロンドンにもロンドン・エスペラント・クラブという組織がありましたので、例会には毎週参加しました。皆さんとても温かく迎えてくださり、例会の後にはパブに行ったり食事をしたりと交流を楽しみました。外国で暮らす経験は初めてでしたし、言葉が不慣れだと何かと居心地の悪さを感じるものですが、エスペランティスト達という間は意思疎通に不自由することがまったくありませんでしたので、海外生活の心細さも和らいだように思います。また、エスペランティストでもある音声学者のジョン・ウエルズ教授もクラブの一員であり、毎月、ことばに関する講義をしてくださいました。ウエルズ教授との出会いは後に学問の道を志すきっかけにもなりました。

観光も兼ねてこれまでに知り合ったエスペランティストに再会するために、ヨーロッパ旅行にも行きました。空港まで迎えにきてくれるだけでもありがたいのですが、観光案内をしてくれたり、パーティーを開いてくれたりと、沢山もてなして頂きました。旅行先で新たな交流が生まれることも度々ありましたし、ただ観光するだけではなく、現地の人々や生活を垣間見ることができました。エスペラント話者はどこか特定の地域に居るわけではなく、世界各地に散らばっており、連帯感を伴うゆるやかな共同体を形成しています。イギリスに居る間も英語が話せるだけでは得ることができなかった経験をすることができました。

皆さんには英語をはじめとする「強者」の言語だけではなく、さまざまな複言語を学んでほしいと思います。これまでとは異なる視点や経験が得られるはずです。未知の複言語との出会いが、複眼的に世界を見つめるきっかけになることを願っています。



たかはし ゆうき
外国語学部・英米語学科

最近、シューベルトの『魔王』(Erlkönig)に凝っている。聴くだけでは、実際に歌唱に挑戦しようというのだ。この年になると、どんなに短い歌詞でもまるごと暗記するのは不可能に近く、ともかくくり返しYouTubeにアクセスし、イントネーションを頭に叩きこむ。ドイツ語は、中二の年に遊びで手を出した程度のレベルなので、ゲーテによる原詩の意味はほとんどわからない。ただ、嬉しいのは、英語から類推のきく単語がいくつか出てきて、それが、簡単な韻を踏んでくれることだ(たとえば「風(Wind)」と「子ども(Kind)」)。

思えば学生時代にも、シューベルトの歌曲に挑戦したことがあった。若かったので、今でも『冬の旅』(Winterreise)第一曲「おやすみ(Gute Nacht)」の最初の数行だけは、簡単に思い出せる。

だが、シューベルトの歌曲のなかでも、代表作の一つとされる『魔王』だけは、最後まで馴染めなかった。はつきりとした理由は覚えていないが、メロディラインが必ずしも明確ではないのが原因だったのだろう。しかし今回、改めて『魔王』に挑戦し、思いもかけず強い働きかけを受けた。とりわけ馬上の子どもが絶叫する「お父さん、お父さん(Mein Vater, mein Vater)」には、

背筋が寒くなるほどのインパクトを覚えた。ドイツのバリトン歌手フィッシュャー＝ディスカウの歌唱である。

メロディラインを最後まで正確に覚えきるのに、一週間ほどかかった。ただ聴いているだけではもったいないと、Amazonで楽譜を取り寄せた。一週間ほどするとドイツ語の発音にも慣れ、日本語のタイトル(字幕)にも目が行く余裕ができた。そこで改めて驚きが走った。何という謎めいた物語か。

ゲーテの原作は、四つの声からなっている。父と子、魔王と語り手の四つの声。父と子が馬のつて森のなかを駆け抜けていく。途中、子は魔王の執拗な誘惑に、馬上の父親に助けを求める。だが父親の目に、憎き魔王の姿は見えない。そこで子は「お父さん、お父さん」と絶叫する。だが再度の叫びも空しく、館に着いた父親の腕のなかで、子は息絶えていた。

私はこれまで、子どもを誘惑する魔王を単純に「死神」と理解していた。子はいま不治の病に冒されており、父親としてなんとかして子を救いたしたい。一刻も早く森を出て館に着けば、優れた医師の手当が受けられる……。

だが、ドイツ語と日本語を見比べながら聴き入るうち、徐々に印象が変わっていつ

二つの「魔」の間で

た。そこには何か尋常ならざる気配が漂っている。しかもその薄気味悪さには、バルトークのオペラ『青ひげ公の城』にも通じる偏執狂的な何かを感じられる。そこで改めてYoutubeで別の何人かの歌手にアクセスマしてみた。四つの声の使い分け、演技力、その他すべての点で、フィッシャー・ディスカウに適う歌手はいない。猫なで声の誘惑が、最後に野蠻な脅しに変わる場面など、ワグナー歌手でもあった彼ならではのドラマティックな迫力を醸し出している。

“Ich liebe dich, mich reizt deine schöne Gestalt,
Und bist du nicht willig, so brauch ich Gewalt.”

「わしは、お前が大好き。可愛いその姿が。いやだというなら、力づくで連れて行く」

それにしても、魔王たるもの、たんに少年を冥界に連れ出すためにここまで媚びるようなセリフを吐くものなのか。最後の決め台詞にある「ゲヴァルト(Gewalt)」という言葉は、あまりにも禍々しすぎないか。正直に話そう。『魔王』の練習に取りかかるとまもなく、私の脳裏にただちに浮かんできた光景があった。ロシア軍によるウクライナ侵攻である。記憶している学生

も少なくないと思うが、侵攻後まもなく、二千人の児童が東ウクライナからロシアに拉致されたとされるニュースが流れた。そしてさらに一月後、拉致児童の数は十二万人にまで膨れあがったというニュースを目にした。データの真偽のほどはわからないが、いずれにせよ『魔王』のドラマとウクライナ侵攻のイメージが重なった。それはかりか、誘惑的な言辞で少年を巧みに誘惑しようとする「魔王」が、いつしか「生白い」独裁者の顔に重なりはじめた。

しかもである。「魔」の文字を介して新たな連想がそこに加わった。他でもない、モーツァルトのオペラ『魔笛』である(事実、この間、私は何度も「魔王」と『魔笛』を言い違えてきた)。理由は何か。今、ここで学生の皆さんにその謎解きを行うつもりはない。できれば、空き時間に、Youtubeで『魔笛』の世界をのぞきこんでほしいと思う。名古屋外大が誇りとする「世界教養プログラム」のテーマにぴったりの話題がそこに用意されている。ただし、一つだけヒントを述べておく。『魔笛』には、「魔王」のごとき人物が登場する。名前は、ザラス

かめやまいくお

留学経験は 人生の宝です

石田 聖子
白井 史人
吉見 かおる

この二年間というもの待ち続けた、海外の大学への現地留学。

オンラインでの世界の人たちとの交流も楽しいのですが、リアルな経験はやはり特別です。

今回は、みなさんの先輩として一足先に世界で学んだ先生たちの、貴重でユニーク、愉快な体験談をまとめてみました。留学先の大学は、カナダ、イタリア、そしてドイツ。さてさて、どんなことが起きたのやら……。

✕学がままで、いろいろ大変！

吉見 私がお話しするのは、留学経験談というより、留学失敗談なんです。自力で高速道路路上をアメリカの国境まで何キロも歩き、入国管理局にたどり着いてしまったこともあります。

白井 僕のばあい失敗とはいえないかも知れませんが、ドイツの学生はルームシェアが一般的で、わりと大変な経験をしました。大家さんは自分よりも若いドッグシッター。全身タトゥーの心優しい大家の彼氏や、大家が預かる犬たちとの共同生活という、想像していなかった形で留学が始まりました。

石田 「わたしが最初に留学したのは「迷宮都市」ヴェネツィアでした。縦横無尽に細い路地が張り巡らされた水上都市です。そのため、島に上陸したはいいもの、大学がどこにあるかさっぱりわからず、途方に暮れました。しかも、ヴェネツィア大学にはキャンパスがありません。じつはイタリアの大学の多くはキャンパスを持たず、町のあちこちに点在する貴族の旧邸宅や修道院だった建物が、校舎として活用されているんです。そんなわ

けで、何十人ものひとに道を尋ねて迷いに迷ったあげく、ようやく目当ての建物にたどりつきました。

吉見 それは他では得られない体験ですね。白井先生はドイツで、ずっと犬に囲まれて暮らしたんですか。

白井 いえ、さすがに論文執筆には支障があるので、留学の後半は、オペラ座の真向かいの一人部屋から劇場に通いました。

石田 大学の音楽学部留学されたのでしたね。そのあたりのお話を少しお聞かせください。

白井 ドイツに留学したのは、博士課程に所属していた二〇一〇年九月からの一年間と、二〇一二年から一四年までの二年間、計三年ほどです。所属はベルリンのフンボルト大学音楽学部。ドイツの音楽、オペラ、映画に関する研究をしました。最初は一年の予定でしたが、滞在中に論文執筆のための課題やさらに深めたいことが出てきたので、帰国後に改めて奨学金などに応募して、同じベルリン・フンボルト大学へさらに二年間留学しました。

吉見 私は日本の高校を卒業したあと、カナダに留学したんです。西海岸の玄関

口、ブリテイッシュ・コロンビア州のバンクーバーです。日本での進学も考えましたが、もっと広い世界を見てみたいという思いが強くなりました。若いころに抱く野心ですね。高校時代の受験勉強の日々にもうんざりしていたので、父の知人が住むバンクーバーへの留学を選びました。

ところがどっこい、到着して早々「あなたのビザに問題がある」と語学学校から入学許可のダメ出しを受け、大変な目に遭いました。それが「高速道路・歩き旅」につながるわけです(笑)。

石田 もともとヴェネツィアという町に興味があったので、ヴェネツィア大学と留学協定をもつ東京外国語大学に進学しました。大学四年生のとき、ヴェネツィ



ヴェネツィア、運河のほとり勉強

ア大学に一年間留学、イタリア文学を学んだんです。もちろん勉強だけじゃなくて、イタリアのあちこちを訪ねたり、イタリア人学生や各国から来ている留学生と交流を深めたり、思い出深い留学生生活でした。

また大学院博士課程では、ダブルディグリー制度のもとで、ポロニーヤ大学院博士課程に留学しました。そこでは講義を受けることはなく、もっぱら博士論文の作成に取り組みました。ポロニーヤの二年半で博士論文を書き上げ、口頭試験を経て博士学位を取得しました。

白井 大学では音楽についてたくさん学びましたが、じつは下宿探しという経験もひじょうに大きな勉強になりました(笑)

石田 私も、ヴェネツィアやポロニーヤでは下宿探しが大変でしたから、よくわかります。

白井 ベルリンでは、家賃相場が上がったこともあってか、部屋もなかなか見つからず、ようやく探し当てても入居できるまで二か月待ちとか。住む場所を別に確保する必要がでてきました。そこで留学の管理事務局に慌てて連絡し、空きがある学生寮に入れていただくことになりました。

ました。

この寮の場所がなかなかすごいです。ベルリン中心部から市電に揺られて二十分、そこからさらに二十分ほど歩いてようやくたどりつく、ベルリンにしてはかなり郊外。緑が豊かで、沼や森といった方が近いマアツァーンという地区です。入居してから知ったのですが、この学生寮は一九五〇年代の東ドイツ時代に、若者たちが「理想的な」学生生活を送ることができるよう開発を始めた場所でした。ただし寮が完成したところで計画がとん挫、建物だけを使い続けたようです。生活環境は街中とは大きく異なり、スーパー、銀行、薬局なども離れた所にしかない。けっきょく夏休みの間の二か月ほど過ごして、旧西側のシャルロットンブルクのアパートへ引越す。別の町から戻ってきたようにほっとしたのですが、住むという形で東ドイツの歴史に触れた良い経験でした。

よく学びよく遊ぶ学生たち

吉見 最初の数年はカルチャーショックの連打でよく泣きましたが、今ではすべの経験が私の人生の財産です。



広大なブリティッシュ・コロンビア大学

大学では文学部アジア地域研究科を専攻しました。カナダ州立ブリティッシュ・コロンビア大学です。半島を大学一つで占めてしまうほど巨大なキャンパス。授業終了のチャイムが鳴ると、ローラーブレイドやスケボーを必死に蹴つ飛ばして移動する学生たちであふれていました。一度は跳ね飛ばされて、窒息しかけたり。「カナダの大学でなぜアジアの勉強？」と思うかもしれませんが、移民国家カナダの留学生活に慣れ始めたころ、アジアを出身とする移民と、その子孫の友人たちと親しくなっていました。留学の前は

単純に、英語圏の国に対してつよく憧れていたのですが、海外に出て自分が「外国人」になったことで、アジアをもっと知らなければいけないと考えたわけです。カナダの学生は、とにかくよく勉強し、よく遊ぶ。キャンパスのすぐ横にはいくつものビーチがあり、遠くにはスキーの山が三つも並んでいるので、午前中は授業に出て、午後は仲間とアウトドアで過ごすという友人がいました。そのほとんどがアルバイトをしながら、学費を自分で稼いでいるんです。だからこそ必死に勉強し、仲間との息抜きを大事にしていたと思います。

石田 ポローニャ大学は、一〇八八年に開学したヨーロッパ最古の大学です。

〈先輩〉には詩聖ダンテや、地動説を唱えたコペルニクスなど、錚々たる顔ぶれが揃っています。じつさいポローニャで、学問の長い歴史を感じる瞬間がたびたびありました。とくに、古書がずらりと並んだ図書館で勉強しているときは、蓄積された学びの情熱が充満していて、それが肌で感じられ、気分も高揚したものです。イタリアでの講義は、先生も学生も常に真剣そのものでした。イタリアではひとつの講義は週に六時間、たいていは三

時間ずつ、二日に分けて行われます。初めてイタリアの大学の講義に出席したさい、先生が三時間のあいだ中ノートひとつ見ず、正面を向いて、言いよぶことなく話しつつける姿に圧倒されました。

学生たちはというところ、その言葉を一言一句漏らさずにノートに書きとめます。みんな、手が腱鞘炎になっていました。イタリアでは現在も、アクティブラーニングは一般的ではありません。あくまでも言葉を通じた知識の伝達、という側面が大切にされています。

吉見 私りがむしゃらに勉強しましたね。次の授業までに学習しなければいけない箇所が、ハンパなく多い。一つの講義につき、リサーチペーパーを必ず一本、多いと二本は書かなければいけなかった。徹夜が続くと、目がよく出目金のようにになりました。教授たちは学問的に厳しい方が多くて、あるとき提出したペーパーの参考文献のピリオドの位置にミスがあっただけで読んでくれなかったことがあり、とても悔しい思いをしました。でも友人曰く、「カナダの大学では普通」だそうです。

学内でいちばん古い図書館の地下室が

私のお気に入りの場所、かび臭い空気
のなかで何時間も過ごしたものです。そ
して私もカナダ人の学生たちのように、
重たい大きなリュックを背負って、ラフ
な身だしなみで学内をあちこち移動する
ときは、どこか誇り高いものを感じてい
ました。

☑日本とは異なる制度・システム

白井 ドイツでは、学ぶということに関
して、大学生という立場がひじょうに快
適で、優遇されていると思えました。州
によってやや違いがありますが、学費は
日本に比べてかなり安いです。また交
付される学生証に、その学期分の公共交
通機関のパスが付されています。その分
の料金は払うのですが、ベルリンで僕が
留学していたときは二〜三万円程度で市
内のバス、市電、地下鉄すべてが乗り放
題でした。

観劇のチケットも学生券はとても安
い。こうした優遇措置があるので、何年
も大学を卒業せず、学生の身分のまま
いる人が多くなってしまうのが問題の一
つになっていたようですが……。

大学間の敷居も低いんです。たとえば

ベルリンのある大学の学生が、市内の他
の大学の授業に出て単位を取ることも一
般的でした。非正規のいわゆる「モグリ」
や、他大との単位互換といった例外措置
ではなく、僕も堂々といろいろな大学の
先生の話を聞きにいきました。大学は自
分の関心に沿って自分のペースで学ぶと
ころ、という考え方を基本としているの
だと実感しました。

石田 イタリアでは、試験の形式も日本
のもの大きく異なります。小学校から
大学まで、試験は基本的に口述。それ
も、公開で行われるんです。これは古代
ローマ以来の弁論術の伝統に則るもの
ですね。

小さいころから口述試験に慣れている
イタリアの学生たちの対応は、堂に入っ
ていて、感心しました。百人を超える聴
衆が見ている前でも、動じることなく、
勉強してきた成果や自身の意見を堂々と
披露するのです。

そんな姿にすっかり見とれていた私
でしたが、いざ自分の番になるとたじたじ
で、いまでも思い出すと冷や汗が出ます。

吉見 いろんな授業を受けましたが、「犯
罪学 “Criminology”」の講義は、今でも
記憶にしっかりと残っています。

「薬物と犯罪」を扱ったときのこと、
外部講師としてカナダ連邦警察 R C M P
(Royal Canadian Mounted Police) で働
く、四十代半ばぐらいの警官の話を書く
機会がありました。スライドと動画を使
いながら、バンクーバー市の犯罪の実態
を紹介するという内容でしたが、よくあ
る「犯罪者を捕らえる」視点からの話で
はない。そこには薬物依存に苦しむ人た
ちの横に、道端で一緒にしゃがんで話を
する警官たちの姿があり、とても衝撃を
受けました。

じつさい、ダウンタウンの一角にヘイ
ステイン (Hasting St.) と呼ばれる薄暗
くて近寄りたくない通りがあり、社会の底
辺に追いやられている人々が生活してい
ます。移民や難民、そして多くは先住民。
貧困や差別が理由で社会の中で行き場を
失い、薬物に染まってしまおうという現実
なんです。

普通であれば、即「犯罪者」扱いで検
挙されるケースですが、警官たちはその
人々に近づいて挨拶をし、体調を確認す
ると、その場に座って温かい飲み物を一
緒に飲みながら会話を始め、少しずつ信
頼関係を築くところから、社会問題を改
善しようとしていた。たった二時間半の

講義でしたが、私に深い問いかけを残しました。

☒ ぜび喜びの経験、苦い経験を！

白井 留学や、海外での滞在経験を語る
とき、ついついそれを「ドイツ」という
「国」の経験として語りたくなること
があります。しかし留学生生活で直面する
のは、もう少し小さい単位。「町」であ
ったり「地区」であったり、さらに言え
ば滞在先の家族やルームメイトといっ
たリアルな場所や人が環境の核を作り
ます。それを「ドイツ」として一般化
すべきではないのだな、ということ
を痛感する日々でした。

たとえばベルリンならば、かつて東
西に分かれていた地域の違いを実感
することもあれば、東西が混じり合
う地域が若者の人気スポットになっ
ていたりしました。

その後も定期的にベルリンに訪
れていますが、論文執筆で必死にな
っていった留学中には目に入らな
かったものを、今さら発見するこ
とばかりです。ドイツで生まれ育
つたり、長く滞在をして働いたり、
家庭を持って生活をしている人か
ら見え

ている部分で、僕にはまったく見
えていなかったことも多いでしょう。

どんな立場で、どのような年代
で留学をするかによっても、大き
く経験が異なると思います。留
学に限りませんが、今の自分の感
性を生かして、いろいろなものと
出会うチャンスを逃さないよう
にしてほしいと思います。

吉見 学生というかけがえない時
代に異文化の土地で生活をした
という経験は、無意識であつても、
心と体に深く刻まれると思いま
す。喜びの経験、苦い経験、さ
まざま。いちばん記憶に残る経
験という、やはりうまくいかな
かつた失敗談がほとんどです。あ
るときそんな話ばかりをしてい
たら、一人の学生から「先生の
留学失敗談を本にして出版して
！」

元気が出る」なんて言われたこと
があります。一緒に大笑いしてし
ました。その第一弾が今回のお話
です(笑)

石田 本当に、留学生活には苦
勞がつきものですよね。日々、失
敗の連続と言ってもいいくらい
。しかししたいのことは、あと
から振り返れば貴重な経験にな
る。留学する皆さんには、人生
のうちのかけがえない時間を過
ぎしているのだ、という意識を
つねにもち、与えられ

たチャンスに真剣に向き合い、積
極的に挑戦して、あらゆる経験
を楽しんでもらいたいと思いま
す。

現在では多くのことがオンライ
ンでできるようになりました。でも、
生身の経験はやはり別物です。
現地に行くチャンスを得たの
なら、できる限り多くのことを、
オンサイトで経験するように心
掛けてほしいと思います。そし
て、たくさん笑い、泣き、感動
してください！
その経験が人生の宝物になる
はずです。

いしださとこ

世界教養学部・世界教養学科

しらいふみと

世界教養学部・世界教養学科

よしみかおる

現代国際学部・現代英語学科

(座談会構成・文責 川端)

あなたが引き寄せる読書

古澤言太

毎年、春になると、新入生向けの読書ガイドが雑

誌などに掲載されるのをよく目にします。「大学教員が新入生にすすめる〇冊」、「大学生のための〇冊」といったものです。入学したばかりの皆さんにとって、「まずはこれを読め!」とばかりにリストを提示してくれるこのような企画は、自分で読むべきものを探す手間を省いてくれるありがたい存在です。そしてそれらの本は、人生の先達が自らの経験上、自己の思考を確立するのに有益であると考え、後に続く皆さんにもぜひ読んでもらいたいものであるに違いありません。また、それが学問に関わるものであれば、それらの書物が与えてくれる知識を持つことと自体が、議論を行うための大前提となる場合もあるでしょう。

一方、とかく管理されがちな高校生活を終えて自由な身分の大学生になったのに、暗に皆と同じ本を読むことを示唆されたように感じて、反発を覚える人もいるかもしれません。他者が推奨する本が、誰

にとつても価値を感じられるものであるとも限りません。人の関心は、その人が置かれている状況によつて様々であり、その内容を必要とする時期も人によつて異なります。私自身の経験を振り返つても、時間の経過とともに興味の対象や問題意識の変遷がありました。

著者が同郷であるとか、文体が魅力的であるとか、自分の好きなことが全く違う文脈で語られているなど、些細なことをきつかけに自分とは無縁だと思つていた本に突然引き寄せられることがあります。そして自分にとつての異世界が、急に身近になるのです。読者の問題意識の片鱗が、そのような出会いを引き寄せるのだと私は思っています。読書行動は、その人の生き様と相互に影響を与え合つていて、本との出会い、知識の蓄積、思考を繰り返しながら、その人自身が形づくられていくのかもしれない。そうであるならば、あなたが出会う本と、その出合いのタイミングは、あなただけのオリジナルなものです。予想もつかない素晴らしい巡り合いに期待して、私たちはどんな本に対しても常に心を開いておいたほうがよさそうです。

「レポートの書き方」⑦

「学期末レポートの書き方（5）」

真田 郷史

前回は、意見文タイプの「学期末レポート」について、「三部形式（序論・本論・結論）」という「レポートの基本的な形」をお話しました。

イメージとしては「ハンバーガー」です。最も重要な（美味しい）部分の「本論」を、上下の「序論」と「結論」で挟みます。

「序論」は「本論」への導入部分で、文字通り、読み手を本論での考察に導く役割を担っています。「結論」は「本論」での考察の要約部分で、本論を振り返りながらその要点を整理し、読み手の理解



を助ける役割を担っています。

このように、それぞれの部分には「それぞれの役割」があるので、自ずから各部分における文章の性格も、その役割に応じたものとなります。つまり、「序論」と「結論」は説明・解説のための文章ですから、できる限り明瞭に分かりやすく

書くことが重要です。これに対して「本論」は考察・議論を展開する文章ですから、単なる説明に終始するわけにはいきません。問題を深く考察し、その過程を論証の形にまとめたり、問題を多面的に検討するために、議論を組み立てたりする必要があります。

今回は、「本論」での考察の進め方・議論の組み立て方について、お話しようと思います。

ごく単純に言えば、意見文タイプのレポートの三部形式とは、「序論」で提示した問題について「本論」で考察を展開し、その結果を「結論」として主張する、といった一連のストーリーを組み立てる形式のことです。

したがって、「本論」に書くべき内容は、「序論」で立てた問いに答えるための考察に尽きるわけです。尽きるわけですが、何度も言っているように、レポートの中で最も肝心な部分は「本論」です

から、ここを書き上げることに、時間も精力も十分に注ぎ込まなければなりません。ここで手を抜いたら、いったい何をしているのか分からなくなってしまう、と考えておいて下さい。

それでは、「本論」における考察は、どのように展開すべきなのでしょう。もちろん、「序論」で提起した問題に応じて、その分析や解決へのアプローチは異なりますから、「このような形式で」といった一定の具体的な形があるわけではありません。ですから、ここでは「本論はこのように書きなさい」という形式的なお話ではなく、むしろ「本論の展開を一つのプロット、ないしストーリーとして、このようにイメージしてみても良いでしょう」というお話を、一つの比喻を使って提示したいと思います。

先ほど私は、意見文タイプのレポートの三部形式とは、「序論」→「本論」→「結論」という一連のストーリーに他ならな

いと言いましたが、この説明自体が、意見文タイプのレポートを何かしらの「物語」あるいは「小説」になぞらえた一つの比喻であることは、お分かりかと思いますが。この比喻を、もう少し詳しく具体的に見て行くことにします。

かねてより私は、意見文タイプのレポートと推理小説が類似している多くの点に注目して、前者を後者のイメージで捉えることができるのでは、と考えてきました。

すぐにお気づきかと思いますが、両者の類似性の要点は、その「論理性」ということにあります。つまり、どちらも突き詰めれば、論理的な思考過程の表現であるということです。

このタイプの表現形式で、最も純粹なものと言えば、数学の証明・論証(demonstration)に行き着くわけですが、ここでは数学のような記号体系ではなく、日常言語による表現という点に限定したいので、あえて推理小説を使って考

えてみます。

一口に推理小説と言ってもさまざまなタイプのものがありますが、その中に「本格推理小説」と呼ばれる一群の作品があるのをご存知でしょうか。推理小説における「本格」とは何かという話になると、これはこれでなかなか定義が難しいようですが、ここではざっくりと次のようにイメージしておいて下さい。つまり、典型的には「名探偵」が登場して難解な事件を鮮やかに解決する、といったタイプの(いわば古典的な)推理小説のことだ。

もちろん、彼が難事件を解決するのは、彼自身の直観力・洞察力・推理力によってなのですが、重要なのは彼の「謎解き」がまさに正鵠を射ていて、周囲の登場人物だけでなく、読者をも十分に納得させるものである、という点です。

この「説得力」こそが本格推理小説の要であり、同時に、それは意見文タイ

プのレポートの要でもある、と言いたいわけですね。言い換えれば、意見文タイプのレポートを書く時、何が一番重要かと言えば、貴方が言いたいこと・言っていることが読み手を十分に納得させるものであるかどうか、ということなのです。できれば、本格推理小説の作者になったつもりで、貴方自身が名探偵として、難事件を見事に「解決」してみせて欲しいものです。

評論文（意見文）の読解テクニクとして、論者の最も言いたいこと、つまりこの文章の最も重要な箇所を、キー・センテンスという形で見つけろ、というのがあります。この練習方法には、効用とともにさまざまな弊害が伴うのですが、その最たるものに、意見文レポートにおいて最も重要な部分は最後の「結論」である、という誤解を招くということがあります。

物事を単純に考えれば、「結論が大事」

というのは当然のようにも思われるでしょうが、それなら、意見文レポートの「本論」は何のためにあるのか、「序論」で立てた問いに「結論」で正しく答えていけば、この二つだけで話は完結しているわけで、そもそも「本論」など必要ないのだ、ということになるのでしょうか。話が乱暴だと思われるかも知れませんが、実際、初学者の中には、「本論」を書き始めると直ちに「結論」を書く人が少なくありません。彼らの思考は「結論が大事」という呪いで縛られているように、思えてなりません。

実のところ、そこには、「重要（大事）」という言葉の使い方をめぐる混乱があるのです。先ほどの比喻に戻って考えてみます。本格推理小説の発端は、「ある事件（多くは殺人事件）」です。この事件が難解な謎を生み出します。

「5W1Hの疑問詞」で整理すれば、「何をした(What)」に相当するのが、「殺

人（被害者Yを殺害した）」ということになります。

そしてこの事件をめぐっては、多くの場合、「いつ(When)」「どこ(Where)」は、比較的早い段階で捜査事実として確定されますが、犯人「誰が(Who)」、動機「なぜ(Why)」、手口「どのように(How)」などの要素が謎のまま残される、というのが一般的です。

さて、事件をめぐって解明されるべき謎(問題)の中、最も「重要」なのは「犯人は誰か(whodunit)」ということだと言ってもよいでしょう。そのため、小説の中でも、名探偵の近くにいる登場人物の誰彼が、話の途中で「犯人が分かった」と騒ぎ立てる、というシーンがよく描かれます。

しかし、その推理とも言えない「思い付き」は、検討に付されるとすぐに馬脚を現し、矛盾や憶測だらけで、とても人々を納得させられるものでないことが分かります。これが、先ほどの、レポートの

「本論」に入るとすぐ「結論」を書いてしまふ初学者の姿なのです。

「結論が大事」だからと言って、とにかく急いで書いてしまえばよい、というものではないのです。時に名探偵もまた、事件の最初から鋭い直観力で、誰が犯人か「目星」を付けているかも知れません。しかし、彼はそれを決して「口にしない」のです。彼が犯人を指摘するのは、物語の最後（クライマックス）になってからです。彼にとっては、誰が犯人かはもとより、それ以上に、事件の全容が解明され、謎がすべて解けることが、「より重要」だからです。さもなければ、読者を十分に納得させることが出来ませんから。

物語の大半（における彼の探索活動）は、最後の場面で犯人を指弾するための、「証拠集め」に充てられているわけです。

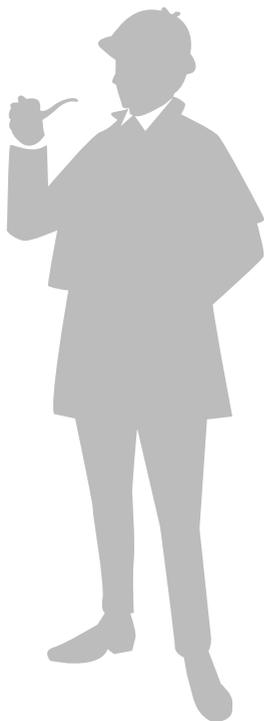
意見文レポートの中心部分である「本論」もまた、実はそのような地道な推論の積み重ねの場、という性格を持っています。そして、それこそが、レポート全

体の説得力を支える最も「重要」な役割を担っているのです。どうか皆さんも、小説の中の迂闊な登場人物にならないよう、注意して下さい。「結論が大事」ということと、「読み手を納得させる上で何が一番重要なのか」ということの意味を、取り違えないようにして下さい。

では、説得力のある意見とない意見の違いは、どこにあるのか。最後に、この点について考えてみましょう。確かに「結

論」そのものが読み手に受け入れられやすいか否か、という側面がないとは言えません。

しかし、それだけに頼ろうとすると、迎合的な意見に墮してしまふ怖れがあります。むしろ、読み手にとっては俄かに受け入れ難い「結論」であっても、論者がなぜそのような「結論」にたどり着いたのか、その思考過程が、確かな根拠と妥当な推論によって成り立っているのなら、そうした意見は人々に理解され受



け入れられるはずで、その問題に
関与している人々が等しく理性的
であれば、ということですが、説
得力のある意見とは、そのよう
なものと言えます。

逆に、説得力のない意見とい
うのは、根拠が不確かであった
り曖昧であったり、また、結論
へと到る推論のどこかに矛盾
や破綻が生じているようなもの
とです。こうした違いは、多く
の場合、複数の人々の間での議
論や検討に付されることで、明
らかにになります。推理小説
で言えば、警察内部や探偵の周
辺で行われる「捜査会議」です
ね。学術的な論文の場合は、学
会がそのような場となります。

しかし、大学の「学期末レポ
ート」では、そのような場を想
定することは難しいので、レポ
ートの「本論」中にあらかじめ
そうした「検討の場」を組み込
んでおきます。つまり、レポ
ート全体の論調とは異なる対
立的な意見の持ち主（仮想論
敵・批判者）を想定し、そのよ
うな立

場から自分の意見に対する「批
判」を展開するわけです。

この「批判」に対して、改
めて自分本来の立場から反論
することで、自分の意見をよ
り説得力のあるものに鍛えて
いきます。いわば「一人二役」
を演じるわけです。

注意しなければならないのは、
敵役（批判者）の立場で考
えている時は、最初の自分の
立場を引き摺ってはいけな
い、ということ。元々の自分
を忘れて、それまでに述べら
れてきた話を全くの他人が
書いたものとして読み、その
考察の弱点を徹底的に指弾す
る、というつもりで「批判」
を展開して下さい。「言うは
易く、行なうは難し」ですが、
まあそれくらい気持ちで
よいと、なかなか効果が期
待できません。

このように、自分自身の考
察の中に自分とは異なる「批
判者」の視点を組み込むこと
を、ここでは「議論（argument）」
と呼ぶことにします。自分の
意見の独善

性を排し、論理的な弱点を補
強し、もって説得力のある意
見にするための、「思考形式」
です。ぜひ一度、試してみ
て欲しいと思います。

どうやら、予定の紙数が
尽きたようです。ではまた、
お会いしましょう。



さなだ さとし
名古屋外国語大学名誉教授

NUFS & NUAS

読書コメント大賞

…読んで書いてつながろう…

読書コメント大賞は、出会えていなかった仲間と読書の楽しみを共有してもらうためのイベントで、印象に残った本の感想や批評をそれぞれの個性を生かしたコメント形式で書いてもらうものです。

五回目の開催となった今回は、新たに「推薦図書部門」を設け、先生方から十九冊の図書を推薦していただきました。応募作品総数は百三点。その中大賞をはじめ受賞作品十点をここに紹介します。コメントされている本は中央図書館にすべて所蔵があります。コメントを読んで気になった本があったら、是非手に取って読んでみてください。「学生に今こそ読んで欲しい！」と先生方が選ばれた推薦図書に挑戦するのもいいですね。

そして、次はあなたが、読んで、書いて、つながる番です。

※受賞作品(第一回〜第五回)及び推薦図書リストは、図書館ウェブサイトで確認できます。



大賞 『赤い高粱』 莫言著、井口晃訳

魔術的リアリズム。非現実的な物語を現実風につくり換えた仮想世界。著者莫言が創造したこの世界に私は惹き込まれた。フラッシュバック手法で過去の出来事が語られる構成は、更に読者を幻想的な空間へ誘う。日中戦争を背景とした日本軍と中国農民との間の血腥く、残酷な争い。中国農村の複雑で深刻な地域社

会。終始登場する「紅い高粱」の記憶を通し語られるこの世界は、まるで生き地獄のようである。人間の生と死。自由とは？ 家族とは？ 愛情とは？ 人間の根源的な本能欲求について改めて考えさせられた。全巻を読み終えた後、もう一度最初から読み直してほしい。きつと張られていた伏線が明らかになるだろう。様々な技法が用いられたこの作品はまさに魔術的と言える。莫言がこの世界に散りばめたメッセージをあなたはどうか捉え、どう感じるだろうか？ あなたはきつと不思議な世界を体感することになる。(なつ)



最優秀賞 『もし僕らのことばが』

未知のものに対する人間の好奇心は尽きない。そしてその好奇心は宇宙のように遠いものより、身近に感じられるもの

に對してより強くあらわれるのかもしれない。この本は日本の代表的な作家である村上春樹が、妻とアイルランドを二週間旅したエッセイである。

旅のテーマは「ウイスキー」。蒸留所の人々の話やバブをはしごしてウイスキーを楽しんだ村上の記憶が綴られている。落ち着いた雰囲気の中に、旅に思いを馳せて若干浮かれているような語りが続く。ほろ酔いな人の横にいと、愉快な空気が伝染して自分まで楽しくなることがある。どうやら、この本にも似たような作用があるようだ。私はウイスキーを飲んだことがない。しかしこの作品に出会ってから、スーパーなどのお酒コーナーを通り過ぎるときなんか、ふとウイスキーの種類をしてみるようになった。あなたもこの本を読んだら、私のように、日々の生活の中に新たな好奇心が芽生えるかもしれない。

(e)

図書館特別賞

『夏物語』

川上未映子 著

ページをめくった先は、まるで暗く深い森の中だった。出口へと導いてくれる道はなく、目線の先は霧で覆われている。どこからか、こっちへおいでと声が聞こえた。私は迷い、立ち止まった。どの方向へ進んでも、正解ではない気がしたからだ。

迷う私の手を掴んでくれたのは、最後まで自分の信じた道を進み続ける夏子だった。森から抜けるラスト六ページ、夏子と共に見たのは希望と絶望を含む、けれども世界に一つしかない輝きに満ちた光だった。

誰しも一度は考える「生まれてきた意味」を超えた問題が、この本にはある。生命を産み出す残酷さと横暴さを描き、子を産むことの賛否を問う。子を産むこと、親になること、生まれてくること、生命に関わる全てがこの一冊にまつてゐる。

『夏物語』という森を抜けたあと、あ

なたの世界は色を変える。新しい色で染まる世界をその目に映してほしい。

(白湯)

出版会賞

『人間失格』 太宰治 著

「恥の多い生涯を送ってきました」と語る一人の男。どんな悪いことをしてきたのだろうと、ひとたびページをめくれば、人間の裏切り・醜さを目の当たりにする。話を読み進めていく内に、男が受ける性暴力、ネグレクトに胸が締め付けられる。救世主などいない世界で、次第に彼は救いを求めて女と薬に溺れていく。

「これが人間というものだ、期待するだけ無駄だ」と、太宰にささやかれているようだ。読み終えた後の脱力感といつたらない。本来人間というものは、嫌な部分からは目を逸らし、隠したくなるものだ。しかし、太宰は違った。面と向かい、文字化された人間の渇くことな欲望と本性は、私に刺激と衝撃を与える。



新潮文庫

この、人間の本质をえぐり出す表現は太宰の武器といえるだろう。当たり障りのない日々を過ごす私たちに「人間とは何か？」と七十三年の時を超えて問いかける。みなさんには彼の見た世界がどう映るだろうか？

(豆大福)



出版会賞

『人間失格』

太宰治著

「ああ、人間とはそういうものだな。」

これが全ての感想だった。この本を読んだ者は、共感できる者とそうでない者に二分されると言う。私は間違いなく前者だ。読み終わった瞬間、まるで自分の心が全て代弁されたかのような、なんとも言えない爽快感を感じるとともに、腹の底に沈む重々しいなにかを見た気がした。人間の核の部分突き抜けている、そう思った。悩みを作り出すのはいつも自分で、より重い罰を科していないと、生きていてはいけない気がする。自分という

人間が罪人に思えて仕方ない。赤子のままの清い心でいられたら。こんなことを、私も考えたことがあった。人間は生きるために、徐々に醜くなっていく。きつと葉蔵は、太宰治は、それが許せなかったのだろう。それ故、自分という、人間という罪深い生き物に対して、失格の審判を下した。生まれ落ちた瞬間から、人間は誰しも、人間という難題を課されているのであろう。

(ほっとけーき)

推薦図書部門賞

『スワン家の方へ1』

(失われた時を求めて)』

マルセル・プルースト著、鈴木道彦訳

「失われていく意識を求めて」と、表紙にコメントを残したい。この本を完読するまでに何度初めの頁に戻ったことか……。まず、主人公に名前がない。そう、この小説は名前がなのまま完結するのだ。この小説は三つの部に分かれている。一部は主人公が幼いころに過ごしたコンブレーでの思い出。次に主人公の恋愛。最後、三部目に愛が美として描かれている。主人公とは誰なのか。どう

いった人なのか。私は絶対教えない。聞きたいならばこの小説に聞きいてくれ。これを読み終えた時、あなたはこの世界に入り込み、読み終えることができた達成感と、言葉に表すことのできない感銘を受けるだろう。「失われた時を求めて」。

(shoko)



奨励賞

『舟を編む』

三浦しをん著

辞書がどのように作られるかご存知だろうか。そして辞書にどのようなイメージを持っているだろうか。「辞書は言葉が色々載ってる本」この物語を読んだ僕は辞書に対する認識がその程度だったことを恥じた。ひとつの辞書にどれだけの人が携わり、どれだけの時間が、そしてどれだけの情熱が注がれているのかなんて知らなかった。

言葉の海を渡るその舟こそが辞書なの

だ。彼らは真つ暗な言葉の海で藻掻きながら、一つ一つ舟の素材を拾い上げて行く。途方も無い努力の果てに作りあげた舟は決して沈むことの無い、大海を渡るに相応しい舟である。

どの言葉を選ぶか、紙はどのような素材か、文字の大きさはどうするかなど、その全てにこだわった紙の辞書には電子辞書には変え難いものがある。おっと、「こだわる」という言葉は適切ではなかったか。書き直しておこう。僕も荒木さんに叱られてしまう。(わき)



光文社文庫

奨励賞

『深い河(ディープ・リバー)』

遠藤周作 著

神ということばが嫌なら、別にタマネ

ギでもいいんです。幾度となく、大津のことばが私の心を強く締め付ける。仏教、キリスト教、イスラム教、それぞれがそれぞれの神を信仰して生きている。

だけど私は、その神の世界には入りこめない。その世界がよくわからない。なんか虚しくて、突然と立ちすくんでかなくなる。私のこころの奥に響いて鳴り止まないもの、そんなものをいつも漠然と求めている。そんな時は、この本と共に、遠藤周作と共に、深く広い河にゆつくりと浸ってみるのもよいだろう。好きなように浮かんだり、沈んでみたりもするのだ。そうしたら、そのうち何か滲み出てくる。そんな彩りを添えてくれる滲みを、私は今もせわしなく探している。(たらちゃん)



講談社文庫

奨励賞

『酒国・特捜検事丁鉤見(ジャック)の冒険』

莫言 著、藤井省三 訳

権力者が「赤子を食べている」との情報を聞つけ、潜伏調査を行うため向かった酒国市にて主人公が事件を追いつつ酒色に溺れていく様を描いた推理小説。複

雑な文体と著者莫言特有の魔術的リアリズムを用いた「食、酒、女、殺生」の描写は、読者を混沌とした酒国市に拉致する。この混沌さは読み進めるほど強くなり、徐々に現実と虚構の狭間に引きずり込まれ、自身が一体何を読んでいるのかさえ分からなくなる。しかし、奇怪千万にして背徳的な美しさが感じられるカニバリズムの表現と残酷な殺生の描写は、嫌悪感を超える猛烈な好奇心を掻き立て、ページをめくる手は止まらない。

読者が一心に求むは、果たして真に赤子を食べているのか。この謎を解明したく混沌を突き進む。読んだものだけがたどり着く莫言の世界。

この混沌とした世界を共有し、ともに『酒国』を暴く相棒をここに求む。(はる)



岩波書店

奨励賞 『人間の土地』

サンテグジュペリ著、堀口大學訳

枯木に花咲くより、

生木に花咲くを驚け

江戸時代を生きた思想家、三浦梅園の言葉である。

ごく稀な奇跡の中に、驚きや感動を見出してしまいがちだが、足元の出来事に驚き、感動することができれば、より豊かになるのではないだろうか。

想像力が、人と人をつなげる。

サンテグジュペリは、職業パイロットとして飛行機を飛ばしていた。フライトを控えた夜、一つのランプを携えて砂丘に座っている彼は、蜉蝣がランプに触れたことを感じ、こう考える。

「無人島の波打ち際に漂流物が流れ着くことは、遙か遠くに嵐があることを伝えてくれる。それと同じように、この蜉蝣は、熱砂の嵐を伝えてくれる。そして今頬を撫でたそよ風は、その嵐が届く最後の限界である。そして僕はこの嵐の中に飛び立つかもしれない。」

奥深くの砂漠にいないはずのない蜉蝣。彼は、とても細かなヒントに、大きな動きを感じ取った。空を飛んでいた彼の思考の断片から、あなたは何を感じるのだろうか。
(れいや)



選書ツアー

受賞者のみなさんには副賞として、好きな本を図書館の所蔵用として選んでもらいました。選んだ本は、最優先で借りて読むことができる特典があります。店頭選書、オンライン選書、各自が好きな方法で参加し三十冊超の本を受け入れました。分野はさまざま、同世代が選んだ本を是非手に取ってみてください。また違う世界が広がること間違いありません。

図書館では、受賞作品の発表後、二階テーマ展示コーナーで受賞作品をコメントした本とともに展示、その後選書ツアーで図書館所蔵となった本を「学生選書」としても展示しています。図書館ウェブサイトにて過去分も確認できますので、是非アクセスしてみてください。



読書コメント対談

選書ツアーに変えて

今年、リアル書店での「選書ツアー」

とオンライン選定との二本立てとなり、そのあとの「座談会」は開催できませんでした。代わりに各受賞者のなかからお二人にご登場いただき、タテヨコナメと本にまつわる対談を自由に繰り広げてもらいました。楽しかった！ 出席されたのは外大のさいとうえなさん(S)と、学芸大のおおさこゆきなさん(O)です。司会とまとめは、出版会の川端が担当、大岩編集長もひそかに参加。

● 受賞作『もし僕らのことばがウイスキーであつたなら』『人間失格』を選んだ理由を教えてください。

S 村上春樹の小説はそんなに好みじゃないんですけど、エッセイは結構いい。軽い読み物として借りてみたら、すごく面白かったの。ほろ

酔いの人の楽しさみたいのが伝わりました(笑)
O コロナ禍の自粛、自粛っていう生活で自身と向き合う時間も増え、「人間とは？」みたいなテーマ、壮大なテーマだなんて思っています。それでまずこの本のあらすじを一回検索したとき、共感できる人と共感できない人に分かれるって書いてあって、自分はどっちだろうと
思ってた読んでみました。

● 共感できました？

O できちゃいました(笑)。

● さいとうさん、小説はお好きですか。

S すごく読みます。太宰治がいちばん好きです。いま四年生なんですけど、二年でコメント大賞に応募したとき、太宰のいちばん好きな小説、日本でいちばん好きな小説というので書いたら、選ばれなかったんですよ。だからたぶん、選ばれる選ばれないって、好きかどうかじゃないんだって思いました。

● 太宰のその好きな小説って？

S 『愛と美について』。短いんですけどめちゃめちゃ面白いので、おおさこさんもよかったです。

O ぜひ。メモしておきます。

● おおさこさんも太宰がお気に入りなんですね。はい。『人間失格』からはまってしまって『グッ

ド・バイ』や『女生徒』とかもいま読んでます。

● 本はどうやって買っているのですか。

S 気に入らないと買わないんです。とりあえず図書館に行く。そこで膨大な量を読むんですけど、一気に八冊とか借りて、印象に残って読み返したいと思う本は買って読む、みたいなスタイルです。図書館でどう選ぶか考えたんですけど、タイトルに引きがないと手に取ろうと思わない。タイトルと、あと二ページの第一文、二文目ぐらいまで読んだら、相性が分かるじゃないですか、なんとなく。

● すごいね。そのとおりですね。

O 私は、最近だとYouTubeとかで朗読してくれている作品があつて、それを聞いてみたりとか。あとは、作者の方をネットで検索して、どんな本が出てくるのかなとか、あらすじを見てみるんです。アニメが大好きなので、『文豪ストレイドックス』というアニメにたくさん文豪が出てきたので、名前を知ったりしています。

● 書店じゃなくて、ネットで買っちゃいます？

S 欲しいものが明確ならメルカリとかで買ったり。何か出会いたいなというときは本屋さんです。

O その本屋さんには在庫があるかどうかみたいなのもネットで見られるので。本屋に買いに行く。本屋さんで取り寄せたりすることもありますね。

O いま二つ夢があります、一つは保育士さんになること。もう一つは、声優になりたいっていう夢。なので、本屋さんに行くと声優系の本を見たりすることが多いですね。声優さんの体験談とか。もちろん、面白そうだなって思う小説も見ちゃいます。

S 最近は詩集が好きです。それと私はフランス語学科なんですけど、春から大学院で現代アートの研究をするので、アート関連図書、芸術に関する哲学っぽい本もたまに読んだり、科学と関連させて研究しているので、科学関係の本も読んだりって、幅広いかもしれないです。

● さいとうさん、自分で文章を書くことは？

S あります。高校三年生のときに受験が終わったあと、一〜二カ月ぐらい暇な時期があつたんです。で、手書きで原稿用紙二〇〇ページ分ぐらい小説書いて、出版社に出したことがあります。めっちゃめちゃ下手だったと思うんですけど、かなり長文のコメントをいただきました。

● おおさこさんの夢をもういちごお願いします。

○ 学芸大の児童発達教育コースにいたので、保育士の免許を取って、大学を卒業したらそのまま東京に行きたいなって。それと去年から声優の養成所に通っていて。来年度は自分でオーディションを受けてみようかって考えてます。太宰の生涯がアニメ化されるときは、太宰の役をやってみたい(笑)

● すばらしいですね。これからお二人はどんな本を読んできたいとお考えですか。

○ 気になってるのが、谷川俊太郎さんの詩。

S マルグリット・デュラスが最近好きで、二冊だけ読んでますが、もっと読みたい。あとフランスの文学に関するプロジェクトに携わってて、フランス文学は全く四年間読んでこなかったの、これからちゃんと触れてみたい。おおさこさんの話につながるんですが、最近買って良かったのが、谷川俊太郎の『どこからか言葉が』と、最果タヒさんの『恋人たちはせーので光る』、あとは短歌。短歌で岡野大嗣さんっていう方の『たやすみなさい』っていう本があるんですけど、これお薦めです。日常の中にある感じがとってもいいです。

● 今まででいちばん好きな本、例えば何回も読んでた本はありますか？

S アメリカの作家ジョン・グリーン『さよならを待つふたりのために』、高校生で、たぶん一回ぐらい読んだのと、小学生でアレックス・シアラーの『青空のむこう』。子ども向け、若い人向けの本はたくさん読んでました。『星の王子さま』も何回も。共通してるのは、ストーリーが面白いとかはべつに、自分の人生の中で立ち止まったとき、なんか答えを探してるって、振り返るために以前の自分が読んでた本をもう一回読むことで、「こういうところは気付かなかつたけど、いま分かるな」とか、逆に「前は共感してたけど、分かんなくなってる」とか、本を通して自分の変化に気付いたりっていう本は、読み返したくなると思います。

○ やっぱ『人間失格』は繰り返し読む本の一つです。コロナ禍になって人目を気にする機会がひどく増えたと思いますが、『人間失格』にも周りの目っていうのがすごく書いてある。それに押しつぶされちゃうみたいな主人公の心情もありますね。ほかに、江戸川乱歩の『目羅博士』っていう作品が気に入って読んでます。

● お二人のステキな読書人に会えて、光栄でした。ありがとうございます。

視聴覚資料の利用は2Fで！

個室は視聴覚資料の利用のほか、プレゼンや展示ブースとしても利用できます。

いろんな使い方が
できるんだね



そのほかニーズに合わせた
各種ブースを用意！

視聴覚資料

図書館では、教養資料からみんなが楽しめる映画資料まで、DVD・BD等の視聴覚資料を豊富に所蔵。特に映画は5,000点以上所蔵しています。

図書館内の視聴ブースは、1人はもちろんグループでも利用できます。(DVD・BD等は館内利用のみです。)

映画を使った学習法

アニメは簡単な単語やストーリーが多く、発音も聞き取りやすいから初心者向きだよ！

お気に入りの映画で、楽しみながら行うことが長続きのコツ！



図書館キャラクター トリイ

映画を使った語学学習

Step 1 英語音声・日本語字幕



出来る限り英語音声聞き取り、日本語字幕で筋筋と登場人物を理解しましょう。Step 1をしっかり行うことで、Step 2をスムーズに行うことができます。

Step 2 英語音声・英語字幕



英語音声と英語字幕のスピードに慣れましょう。英語音声を英語字幕で理解しましょう。映画全編は長いので、1つのチャプターを繰り返し再生することをお勧めします。Listening、Readingだけでなく、分からない単語は辞書を引いて、語彙力アップにもつなげましょう。

Step 3 英語音声のみ(字幕なし)



Listeningに挑戦しましょう。英語音声のみで内容を理解しましょう。字幕が無いことで、より音声と画面に集中することができます。Listeningに慣れたら、細かいニュアンスを読み取りましょう。作品の時代背景やその場に合わせた言葉の選び方、組み合わせ方を学べます。

Step 4 英語音声のみ(字幕なし)



Dictationに挑戦しましょう。聞き取った英語音声を書くことで、似ている単語の聞き間違いや聞き取れない前置詞等、苦手な箇所を把握することができます。また、書き取った文章が文法的に正しいかも確認しましょう。字幕で答え合わせを行った後、再度Dictationに挑戦しましょう。

Step 5 映画の原作を洋書で読む

洋書に挑戦しましょう。映画で描ききれなかった細かい設定を原作で発見できます。原作を読みこんだら、要約や翻訳へのチャレンジをお勧めします。

ポイント！

- 映画を通して、語学以外の歴史や文化も学べます。
- 海外はもちろん、知っているようで知らない日本についても映像で学べます。
- 映画以外にも、地理・歴史・文化・アート・就職等、さまざまな分野の視聴覚資料を所蔵しています。

① nünü DISCOVERY

図書館の所蔵だけでなく、データベース等もまとめて検索できる便利なシステムです。いまや紙に印刷されたものだけが図書館で扱う資料ではありません。図書館が提供するさまざまな学術情報（図書、雑誌、データベース、電子ジャーナル、e-Book、論文等）を一括検索できるツールにより、求める情報を広く容易に入手できます。OPAC からもアクセスできます。

② 蔵書検索 OPAC

図書館が所蔵する図書、雑誌、視聴覚資料を検索することができます。電子ジャーナル、電子書籍も含まれます。学外からでも使えるので、家で事前に調べておけば図書館でスムーズに目的の資料にたどりつけます。

③ 電子ジャーナル・電子ブック

電子ジャーナルは、“オンラインジャーナル” “e-journal (EJ)” ともいいます。一番のメリットは、図書館に足を運ばなくても学内の端末からアクセスして読めることです。開館時間を気にする必要もありません。しかも紙媒体と違い、同時に複数の人が読めます。データベースと相互にリンクされている場合も多くあります。“オープンアクセス” といってインターネット上で無料で閲覧できるものであれば、学外からでも読むことができます。

電子ブックは、“e-Book” ともいいます。

図書館では、“eBook Collection” と “eBOOK Librjary” の2種類が使用できます。なかでも、“eBook Collection” は多読用図書や教養書など5,000以上のタイトルを保有しています。図書館 OPAC から検索して読むことができ、個人アカウントを取得すれば学外からでも読むことができます。早いうちに取得してフル活用してください。

④ 電子資料

雑誌に掲載された記事や論文、新聞記事を探す時、それぞれ専用のデータベースを使います。検索してそのまま全文を読むことができるものも数多くあります。辞書・事典のデータベースもあるので、早いうちにデータベースの達人になればレポートや課題をスムーズにこなすことができます。

⑤ MyLibrary

NUFS-ID・PW で “MyLibrary” にログインすることによって、貸出図書の延長手続きや図書の予約、自分の貸出履歴や貸出状況の確認などができるほか、いくつかのデータベースも学外から使用できます。“My ブックシェルブ” を使えば、検索した資料情報や、検索条件を保存することができます。レポートや課題の下準備に使えるとても便利な機能です。

お目当ての資料を探すなら図書館HPにアクセス

授業等でたくさん出される課題……「資料を探さないといけないけれど、どうしたらいいんだろう?」と困っていませんか。そんな時は図書館のHPにアクセスしてください。スマホからでも大丈夫!

おまけに、VPN 接続サービスを利用すれば、学内利用と同じように利用することができます。1年生から使いこなして、“情報の達人”を目指しましょう!

名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館
Nagoya University of Foreign Studies &
Nagoya University of Arts and Sciences Library

English

Q このサイト内を検索

利用案内	データベース	図書館活用ナビ	申請書類	開館時間カレンダー
① nūnū DISCOVERY	② 蔵書検索OPAC	③ 電子ジャーナル・電子ブック		

名古屋外国語大学・名古屋学芸大学の所蔵資料・データベース・電子ジャーナル・電子ブックをはじめ図書館内外の文献を幅広く探せます。

検索ワード Q

④ 電子資料
各データベース等から文献を探す

⑤ MyLibrary
貸出状況確認、延長、予約等がパソコンやスマホで行えます

遠隔授業支援
図書館資料
郵送貸出サービス

図書館では、さまざまなサービスを提供しています。

詳しくは、右のQRコードからHPにアクセスして是非確認してみてくださいね。



図書館キャラクター トリイ

また会いましょう

最近、太ってきました。コロナ太りなのか、何なのかわかりませんが、自分は太らない人間だとずっと思っていたので、ちょっとした驚きです。昔の自分にとっては、太った未来の自分なんて、想像できなかつたと思います。というほど太ったわけでもありません。

名古屋外国語大学の1年生に向けて、毎年発行している小冊子『PIAZZA』。今年のテーマは「未来の自分と出会う」。もちろん、未来のあなたは、いま自分が思っているのとは、ずいぶん違うはず。先のことなんてわからないのだから。でも、未来の自分について考えてみるのは、いまのあなたのすべきことを考えるうえで、きっと役に立つでしょう。目の前のことで精いっぱい、という人もいるでしょうが、少しでも、未来の自分について考えてみられたらいいですね。

素晴らしい未来がみなさんを待っていますように。(K.K.)

名古屋外国語大学出版会

会長	亀山郁夫(学長)
副会長	恒川孝司(副学長・名古屋学芸大学副学長・法人事務局長)
編集長	大岩昌子(外国語学部フランス語学科教授)
副編集長	甲斐清高(外国語学部英米語学科教授)
編集長補佐	原 慎之介(現代国際学部グローバルビジネス学科講師)
編集主任	川端 博
編集委員	石田聖子(世界教養学部世界教養学科准教授) 白井史人(世界教養学部世界教養学科准教授) 吉見かおる(現代国際学部現代英語学科准教授)
事務局	太田恵雄(大学事務局長) 後藤隆文(大学庶務部長) 福壽佳音(大学事務局職員)
表紙	近藤菜摘
協力	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館

『PIAZZA』は名古屋外国語大学出版会が、2016年度より発行している冊子です。これから始まる大学4年間では、自分とは異なる視点や価値観に出会う機会がたくさん訪れるかと思えます。まずは今号が学生の皆さんにとって、少しでも“未来の自分と出会う”きっかけになることを願っております。お忙しいなか製作にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。
(出版会事務局)

PIAZZA [ピアッツァ] 2022年秋号(第7号)

発行日 令和4年9月1日

発行者 亀山郁夫

編集人 大岩昌子

発行 名古屋外国語大学出版会 Nagoya University of Foreign Studies Press

470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地

<https://nufs-up.jp/> 電話 0561-74-1111

印刷 株式会社荒川印刷

<世界教養>の知のひろばへ

本大学の書店、またはお近くの書店でお求めください。

Artes MUNDI 叢書



世界文学の小宇宙②
囚われて

沼野充義・藤井省三 編
2420円(税込)



**世界は映画で
できている**

石田聖子・白井史人 編
2200円(税込)



世界文学の小宇宙① 欧米・ロシア編
悪魔にもらった眼鏡

亀山郁夫・野谷文昭 編訳
2200円(税込)



**世界が終わる
夢を見る**

亀山郁夫 著
1650円(税込)

学術図書



**ドストエフスキー
表象とカタルシス**

亀山郁夫
望月哲男
番場 俊
甲斐清高 編
3300円(税込)



**言語の構造
一人間の言葉と
動物のコトバ**

川原功司 著
6930円(税込)



**魯迅
後期試探**

中井政喜

**魯迅
後期試探**

中井政喜 著
7150円(税込)

新書



**世界教養
72のレシピ**

名古屋外国語大学 編
1320円(税込)



食と文化の世界地図

佐原秋生・大岩昌子 著
1320円(税込)

 **名古屋外国語大学出版会**
Nagoya University of Foreign Studies Press

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地
TEL 0561-74-1111 FAX 0561-75-1723
<https://nufs-up.jp/>

<世界教養>の知のひろばへ

本大学の書店、またはお近くの書店でお求めください。

NUFS WORKS



ネム船長の哲学航海記1
ソクラテスからの質問「価値は人それぞれ
でいいのか」

根無一信 著
名古屋外大ワークス7
1760円(税込)



現代ヨルダン・レポート
アラブの女性たちが語る慣習・貧困・難民

佐藤都喜子 著
名古屋外大ワークス6
2200円(税込)



牧畜を人文学する

シンジルト・地田徹朗 編著
名古屋外大ワークス5
2200円(税込)



まちづくり心理学

城月雅大 編著
名古屋外大ワークス4
1870円(税込)



アボリジニであること

濱嶋 聡 著
名古屋外大ワークス3
1320円(税込)



留学と日本人

濱丹羽健夫 著
名古屋外大ワークス2
880円(税込)



サミットがわかれば
世界が読める

高瀬淳一 著
名古屋外大ワークス1
814円(税込)

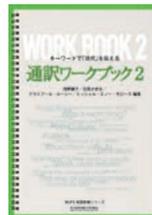
NUFS 英語教育シリーズ



英語コアカリキュラム対応
英語の総相
-音声・歴史・現状-
川原功司 著
1320円(税込)



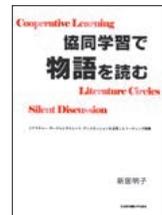
世界のトピックで学ぶ
通訳ワークブック
浅野輝子
吉見かおる 編著
2750円(税込)



キーワードで「現代」を伝える
通訳ワークブック2
浅野輝子
吉見かおる 編著
2420円(税込)



英語が好きの子供を育てる
魔法のタスク
~小学校英語のために~
佐藤一嘉
矢後智子 編著
2750円(税込)



協同学習で物語を読む
新しい授業のために
新居明子 著
1430円(税込)

 **名古屋外国語大学出版会**
Nagoya University of Foreign Studies Press

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地
TEL 0561-74-1111 FAX 0561-75-1723
<https://nufs-u.jp/>

教科書・参考書



アフターハイスクール
日本の中心で出会う多文化・多言語
名古屋外国語大学
出版会 編
1430円 (税込)



アカデミックスキル
真田郷史
長谷川暁人 著
1100円 (税込)



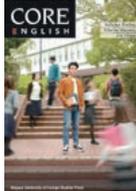
**第二外国語で学ぶ
アラビア語入門**
松山洋平 著
3080円 (税込)



学びの技法
地域を読み、世界を拓く10章
現代国際学部
国際教養学科 編
1100円 (税込)



**POWER-UP
DIALOGUE
I**
1100円
(税込)



**CORE
ENGLISH**
1870円
(税込)



Engage
1980円
(税込)



**Thinking
about
Japan**
1760円
(税込)



**POWER-UP
DIALOGUE
II**
1100円
(税込)



**Core
English
Workbook**
880円
(税込)



**Thinking
about
Culture**
1760円
(税込)

はじめの1000語シリーズ



**スペイン語
はじめの1000語**
1100円 (税込)



**アラビア語
はじめの1000語**
1100円 (税込)



**フランス語
はじめの1000語**
1100円 (税込)



**中国語
はじめの1000語**
1100円 (税込)



**イタリア語
はじめの1000語**
1100円 (税込)

 **名古屋外国語大学出版会**
Nagoya University of Foreign Studies Press

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地
TEL 0561-74-1111 FAX 0561-75-1723
<https://nufs-up.jp/>



9784908523397

ISBN 978-4-908523-39-7

C9402¥100E



1929402001004

定価：110円（本体100円+税10%）

